

廿日市市観光振興基本計画

2026 » 2030



はじめに

廿日市市は、緑豊かな自然に恵まれた山間部から、穏やかな瀬戸内海の沿岸部まで、山と海が共生する多様な風土を有しています。さらに、「日本三景」、世界遺産「厳島神社」を有する宮島を擁しており、この比類なき地域資源は、先人たちが大切に守り、育んできた本市の誇りであり、未来へと引き継ぐべき至宝です。

また、現在、開発が進められている「平良丘陵開発観光交流エリア」には、食と癒やしをテーマとする唯一無二の複合施設が令和 11 年度に開業する予定であり、本市のみならず県内全域や瀬戸内エリアの観光拠点となる可能性を秘めています。



観光とは、訪れる人が五感を通じて感動し、そこで働く人たちは活気に満ちあふれ、住む人がこのまちに誇りと愛着を持つ、幸せの循環を生み出す強力なエネルギーと考えます。

そして観光振興は、行政だけで成し遂げられるものではありません。市民の皆さま一人ひとりの笑顔、事業者の皆さまの創意工夫、そして廿日市市を訪れてくださるファンの皆さまの声。そのすべてが合わさって、初めて形になるものです。

今後、本計画を持続可能な観光地域づくりの羅針盤として観光を取り巻く諸課題に対応し、「選ばれ続ける廿日市市」、「四方よし」（観光客、地域経済、地域住民、地域環境の 4 つにとって良い状態）の観光の実現に取り組んでまいります。

令和 8 年（2026 年）3 月

廿日市市長 松本 太郎

目次

序章 はじめに	1
1 計画策定の背景と目的	2
2 計画の位置付け	3
3 計画の期間	3
第1章 観光を取り巻く動向	5
1 我が国の観光動向	6
(1) 観光の傾向	6
(2) 観光政策	7
2 広島県等の観光動向	9
(1) 広島県の観光の傾向	9
(2) 広島県等の観光政策	10
第2章 廿日市市の観光の現状	13
1 主な観光資源等	14
(1) 市域全体の観光資源等	14
(2) 各エリアの観光資源等	16
2 本市の観光の現況	20
(1) 観光動態、課題等	20
(2) これまでの観光振興基本計画における取組と成果指標の達成状況	23
(3) 市民・事業者による評価	24
第3章 将来像と基本方針	28
1 将来像	29
2 基本方針	31
基本方針1 稼ぐ観光の推進	31
基本方針2 地域も満足できる観光の確立	32
基本方針3 戦略と仕組みづくりの推進	32
3 成果目標の設定	33
(1) 成果指標・目標値	33
(2) 目標値設定の考え方	34

第4章 施策と主な取組	36
1 施策体系	37
2 基本方針・施策毎の主な取組	38
基本方針1 稼ぐ観光の推進	38
基本方針2 地域も満足できる観光の確立	45
基本方針3 戦略と仕組みづくりの推進	50
第5章 将来像の実現に向けて	58
1 推進体制	59
(1) 一般社団法人はつかいち宮島ツーリズム（はつかいち版 DMO）の役割	59
(2) 役割分担	60
2 着実な進行管理	61
(1) 進行管理の方法	61
(2) 中長期的なビジョン	62
参考資料	64
1 計画策定の経過	65
(1) 委員会の開催	65
(2) ワークショップ、ヒアリング等の実施	65
(3) アンケート調査の実施	65
2 廿日市市観光振興基本計画策定委員会	66

序章

はじめに

1 計画策定の背景と目的

これまでの観光振興基本計画（平成 27（2015）～令和 6（2024）年度）では、地域内の消費増加（外貨獲得）、地域住民の活力向上（住んでよし）、地域外からの来訪者イメージ向上（訪れてよし）を図り、「訪問者をリピーターやファンとして獲得し、廿日市市への移住を検討する人の増加を目指す」ための施策・事業に取り組んできました。

この結果として、成果目標として掲げた指標は全て達成し、また、平成 27（2015）年以降、10 年連続で転入超過になるなど、住みたいまちとして選ばれる要因の一つになっているものと捉えています。

一方で、従来からの課題として、日帰り観光が主流で、滞在時間が短く、1 人あたり観光消費額が少なく、宮島以外への周遊・回遊促進が十分ではないこと、また、コロナ禍前後で顕在化した、変化する観光客の旅行意識やニーズ、急増するインバウンド¹、オーバーツーリズム²の未然防止・抑制、デジタル技術の活用や観光人材の不足など、新たな課題等への対応が必要となっています。

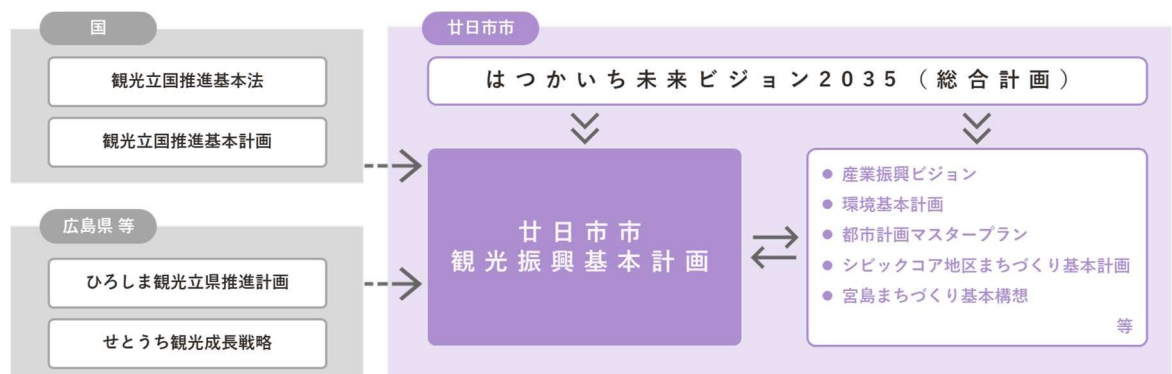
こうした状況を踏まえ、今後は、「量と質」のバランスを図りつつ、観光を入り口に地域経済を活性化させ、雇用創出や移住・定住につなげるとともに、市民、事業者、行政が一体となり、持続可能な観光地域づくりを進める指針となる、新たな観光振興基本計画（2026～2030）を策定し、「観光客」「地域経済」「地域住民」「地域環境」の「四方よし」となる観光の実現を目指します。

¹ 外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを「訪日外国人旅行」または「訪日旅行」という。

² 特定の観光地において、訪問客の著しい増加等が、市民生活や自然環境、景観等に対する負の影響を受忍できない程度にもたらしたり、旅行者にとっても満足度を大幅に低下させたりするような観光の状況。

2 計画の位置付け

本計画は、本計画と始期を同じくする『はつかいち未来ビジョン 2035（廿日市市総合計画）』を上位計画とした本市の観光分野における計画として策定します。



本計画の前身は、平成 27（2015）年 1 月に策定した「廿日市市観光振興基本計画」ですが、想定外の新型コロナウイルス感染症の影響が長期に及び、観光産業は深刻な影響を受け、特に宮島では観光客が激減したことから、令和 4 年（2022）3 月に、宮島の再生・復興のため、ポストコロナを見据え、「宮島ルネサンス計画」を策定しました。

宮島ルネサンス計画は、世界遺産を擁する宮島の自然・文化・歴史などの普遍的価値を活かした「宮島らしい」観光を推進し、持続可能な観光地域づくりの方向性を定めた令和 6（2024）年度までのアクションプランとして機能してきました。

本計画は、これら 2 つの計画を踏まえて策定したものです。

3 計画の期間

令和 8（2026）年度から令和 12（2030）年度の 5 年間の計画とします。

第1章

観光を取り巻く動向

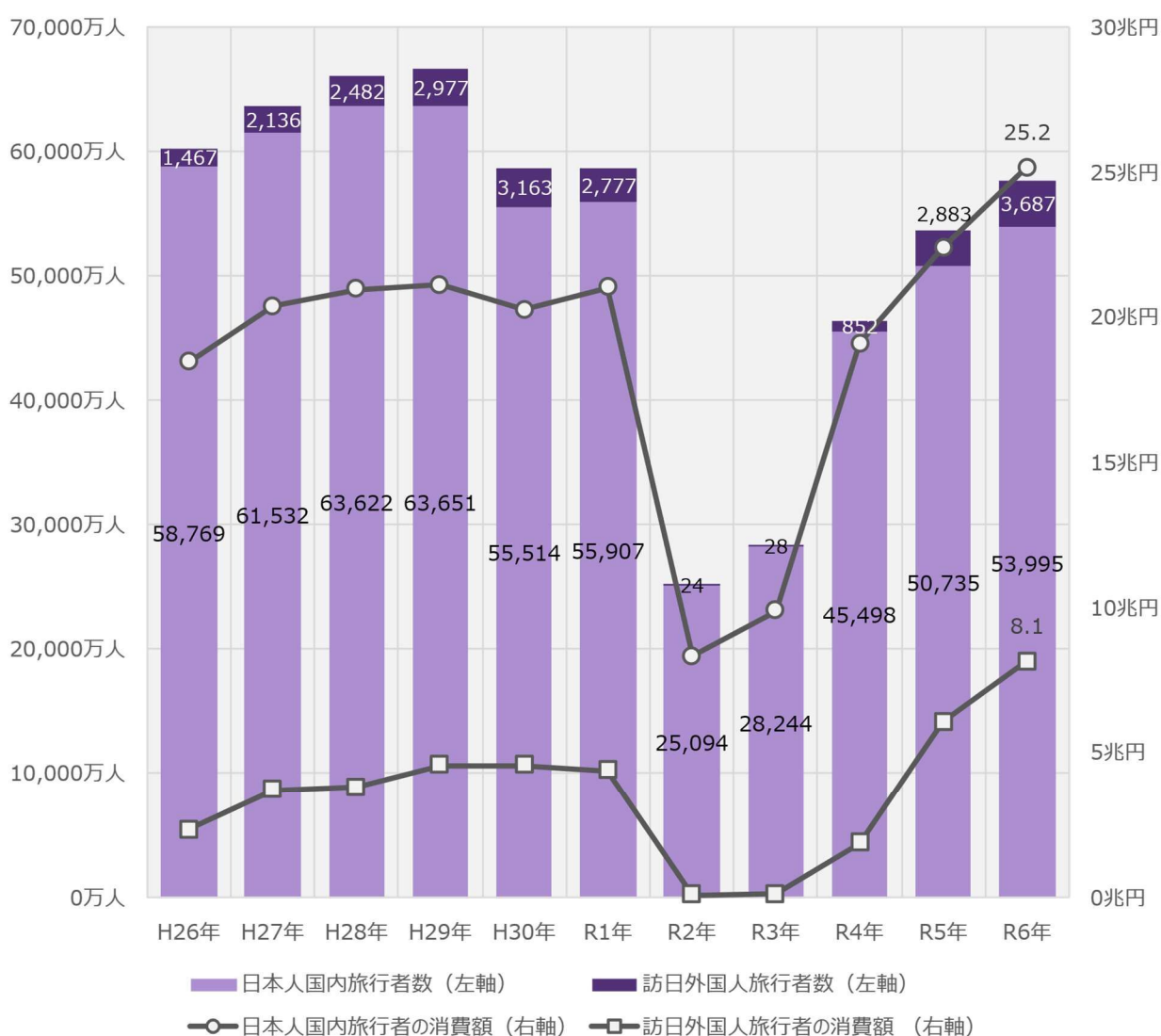
1 我が国の観光動向

(1) 観光の傾向

国内・訪日外国人旅行者数と消費額

国内旅行者数は、コロナ禍による大幅な落ち込みを経て回復基調にあります。令和6（2024）年の延べ旅行者数は約5億4,000万人で、令和元（2019）年と比較すると8.2%減少しているものの、旅行消費額は約25.2兆円と過去最高を記録しました。旅行者数は完全に回復していないものの、1人あたりの支出額が増加しており、消費意欲の高さがうかがえます。

一方、訪日外国人旅行者数は、令和6（2024）年に過去最高の3,687万人を記録し、消費額も約8.1兆円と過去最高を記録しました。円安やアジア市場の回復を背景に、インバウンド需要は急速に拡大しています。



図表 旅行者数及び消費額の推移

出典：旅行・観光消費動向調査（観光庁） 訪日外客統計（日本政府観光局）
インバウンド消費動向調査（観光庁）

(2) 観光政策

観光立国推進基本計画【令和5年度～令和7年度】

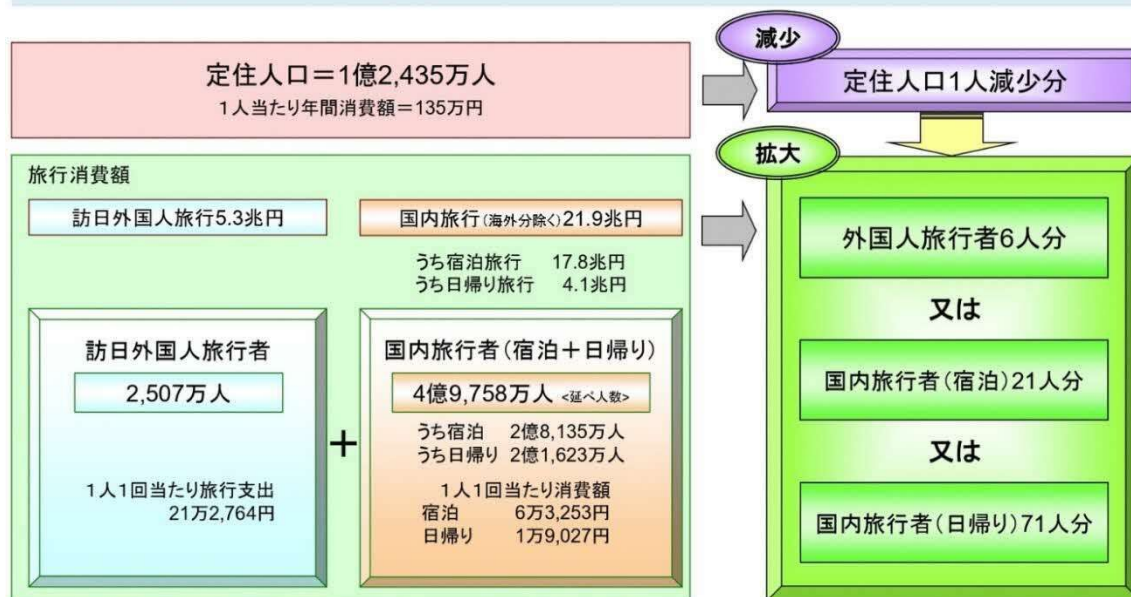
現行計画（令和5年3月31日閣議決定）では、観光立国の持続可能な形での復活に向け、観光の質的向上を象徴する「持続可能な観光」、「消費額拡大」、「地方誘客促進」の3つのキーワードに、観光DX³の推進、観光地域づくり法人（DMO）⁴を司令塔として観光地域づくりの推進などに取り組む「持続可能な観光地域づくり戦略」、消費拡大や地方誘客に効果の高いコンテンツの整備、戦略的な訪日プロモーションの実施などに取り組む「インバウンド回復戦略」、国内旅行需要の喚起、新たな交流市場の開拓（第2のふるさとづくり、ユニバーサルツーリズム⁵等の推進）などに取り組む「国内交流拡大戦略」の3つの戦略を掲げています。

我が国の重要課題である「地方創生」において、観光は、国内交流のみならず、旺盛なインバウンド需要の取り込みにより交流人口や観光消費額を拡大し、地域を活性化する原動力となるものと位置付けられています。

観光交流人口増大の経済効果(2023年)



- 定住人口1人当たりの年間消費額（135万円）は、旅行者の消費に換算すると**外国人旅行者6人分**、**国内旅行者（宿泊）21人分**、国内旅行者（日帰り）71人分にあたる。



出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」、JNTO（日本政府観光局）「訪日外客数」、総務省「家計調査」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」にて観光庁推計

4

図表 観光交流人口増大の経済効果

出典：「我が国観光産業の現状と今後の展望」（観光庁）

3 デジタルトランスフォーメーション（Digital Transformation）の略。業務のデジタル化により効率化を図るだけでなく、デジタル化によって収集されるデータの分析・利活用により、ビジネス戦略の再検討や、新たなビジネスモデルの創出といった変革を行うこと。

4 Destination Management/Marketing Organization の略。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定し、着実に遂行する機能を備えた法人。

5 年齢や障害の有無、国籍などに関わらず、すべての人が楽しめるよう創られた旅行のこと。ユニバーサルデザインの考え方を観光に応用したもの。

持続可能な観光地域づくり

「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを実現するためには、観光客と地域住民に配慮し、客観的なデータと中長期的な計画に基づく観光地マネジメントを行うことが重要です。

国は、各地方自治体や観光地域づくり法人（DMO）が持続可能な観光地マネジメントができるよう、国際基準に準拠した「日本版持続可能な観光ガイドライン（Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations, JSTS-D）⁶」を策定しました。

JSTS-D の役割（活用の効果）

主に、以下の3つの役割を果たすことが期待されています。



自己分析ツール

観光政策の決定、観光振興計画の策定に資するガイドラインとして活用

コミュニケーションツール

地域が一体となって持続可能な観光地域づくりに取り組む契機に

プロモーションツール

観光地域としてのブランド化、国際競争力の向上

本市では、2022年にJSTS-Dのロゴマークを取得し、宮島訪問税の活用等に係る説明資料などに使用しています。

宮島訪問税の活用事業一覧（令和5年度当初予算）

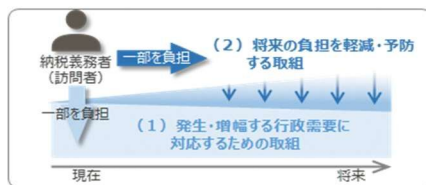
宮島訪問税の活用事業について、次の2つの区分で集計しています。

- (1) 発生・増幅する行政需要に対応する取組

事業費：493,858千円 一般財源：214,896千円

- (2) 将来の負担を軽減・予防する取組

事業費：949,608千円 一般財源：122,874千円



宮島を世界の共通財産として次世代に引き継ぐための道標とした「宮島まちづくり基本構想」の施策体系における「8つの視点」及び、持続可能な観光マネジメントの指標となる「日本版 持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」の4つの分野を併記しています。



基本構想の施策体系：8つの視点

ア：自然 オ：交通
イ：文化・歴史 カ：防災
ウ：産業・観光 キ：福祉・保健・医療
エ：生活・教育 ク：交流

JSTS-D：4つの分野

A：持続可能なマネジメント
B：社会経済のサステナビリティ
C：文化的サステナビリティ
D：環境のサステナビリティ

（1）発生・増幅する行政需要に対応する取組

（現に外部からの来訪によって発生・増幅している行政需要）

基本構想の視点	活用する事業	事業費（千円）	一般財源（千円）	予算事業名	JSTS-D
ウ：産業・観光	多様な受入環境の整備（トイレや休憩スペース、公園、道路などの環境整備） － おもてなしトイレに代表される島内のトイレや自然公園、登山道、弥山展望台等を維持管理しています。また、訪問者も利用する公園や道路の維持管理もしています。	94,291	74,539	観光施設管理事業、自然公園一般事業、公園維持管理事業、し尿処理事業、市民センター管理運営事業、道路維持管理事業、県道維持管理事業、橋りょう維持管理事業	B
ウ：産業・観光	多様な受入環境の整備（観光情報の適切な発信） － 観光案内所の運営や観光案内板等の維持管理、公共スペースでの無料Wi-Fi環境の提供を行っています。	47,251	25,054	宮島口旅客ターミナル施設管理事業、観光おもてなし向上事業、観光誘客強化事業、観光資源ネットワーク化事業	B
ウ：産業・観光 オ：交通	多様な受入環境の整備（利便性の高い基盤整備等による訪問者の観光地へのアクセシビリティ向上） － 道路渋滞等へ対応し、訪問者の観光地へのアクセシビリティの向上を図っています。	41,916	37,442	宮島口地区整備事業、宮島口港湾管理事業、観光おもてなし向上事業	B

⁶ Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations の略。「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを実現するため、観光庁が各地方自治体や観光地域づくり法人（DMO）が持続可能な観光地マネジメントを行うことができるよう、国際基準に準拠して策定した観光指標。

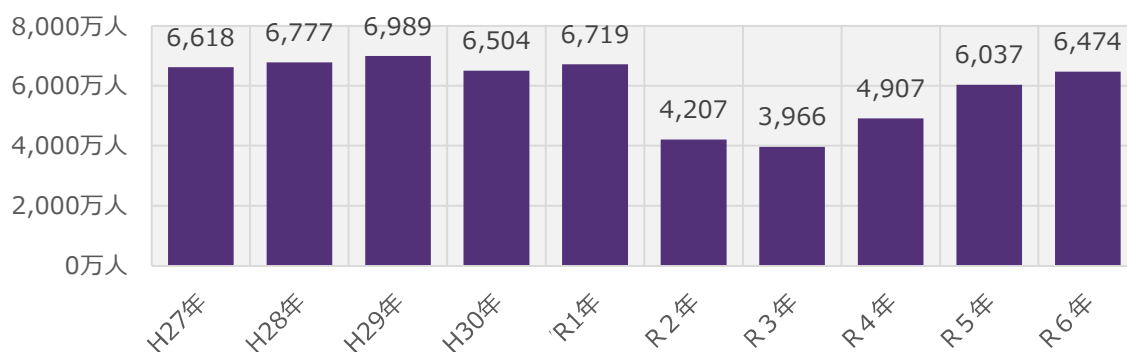
2 広島県等の観光動向

(1) 広島県の観光の傾向

総観光客数

令和6（2024）年の総観光客数は6,474万人で、前年と比べて437万人増加しました。主な要因は、観光需要の回復に加え、広島空港の国際線再開や円安により訪日需要が高まり、外国人観光客が増加したためです。

なお、コロナ禍前の令和元（2019）年と比べると、245万人の減少となっており、国内の物価高騰などが影響し、国内観光客がコロナ禍前の水準まで回復していないためと考えられます。

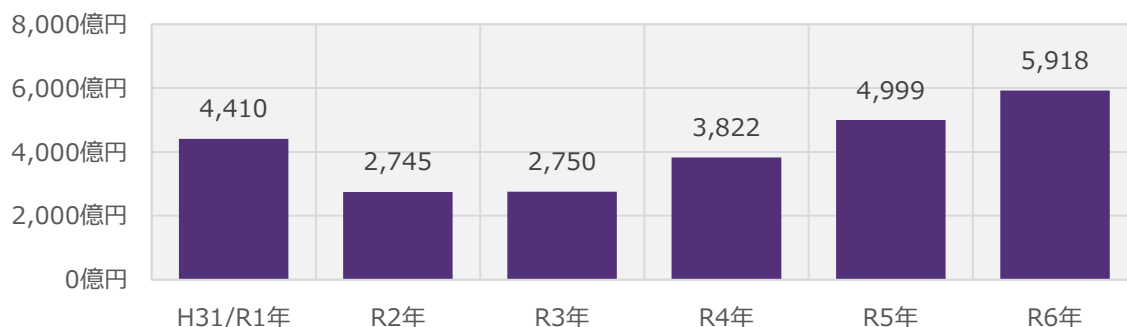


図表 総観光客数の推移

出典：広島県観光客数の動向（一般社団法人広島県観光連盟）

観光消費額

令和6（2024）年の観光消費額の総額は5,918億円で、前年と比べて919億円増加しました。また、1人あたりの観光消費額は9,141円で、前年と比べて859円増加しており、物価上昇による飲食費・土産代の高騰、円安による外国人観光客増加に伴う宿泊費の高騰により、1人あたりの観光消費額も増加したと考えられます。



図表 観光消費額の推移

出典：広島県観光客数の動向（一般社団法人広島県観光連盟）

(2) 広島県等の観光政策

ひろしま観光立県推進基本計画（広島県）【令和5年度～令和9年度】

「ひろしま観光立県推進基本条例」に基づき、観光立県の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために策定されています。

目指す姿		広島を訪れる皆様が広島を好きになり、「他の人におすすめしたい」と思っていただけの観光地となっている。 環境変化に強い観光産業へ、そして県民一人一人が観光を支える一員となる
施策の方向性と取組内容	ブランド価値向上につながる魅力づくり	観光客ニーズやインバウンド需要を踏まえたロングテールで持続可能なプロダクト開発、県内の幅広い産業を巻き込みイノベーションに挑戦する事業者の支援を進める。
	誰もが快適かつ安心して楽しめる受入環境整備	すべての人がストレスなく、安全安心に観光でき、自然・文化資源の保全や脱炭素・グリーンリカバリーを踏まえた受入環境整備、観光事業者のホスピタリティの促進に取り組む。
	広島ファンの増加	各ターゲットに応じた効果的な手法や適切なタイミングでの情報提供や HIT ひろしま観光大使をはじめとした広島ファンの増加、また県民のシビックプライドの向上を図る。
	3つの柱を支える土台作り	災害や感染症など環境変化にも対応できる産業構造改革や推進体制の促進、人材の確保・育成及び働き方改革の推進、関連部署や関係団体との連携強化、すべての県民への本県観光の目指す姿の共有などに取り組む。

せとうち観光成長戦略2023－2025（一般社団法人せとうち観光推進機構）

せとうち観光成長戦略は、大阪・関西万博が開催される 2025 年度を目標年度として、せとうちの広域観光を促進するための3年間の基本的な考え方・戦略を示すものです。

目指す将来像	観光は成長戦略の柱、地方創生の切り札であり、国の目標である訪日外国人旅行消費額 15 兆円達成に向け、せとうちが世界一の観光地となって、地方創生に貢献する。
戦略の方向性とターゲット	国が地方における高付加価値旅行者誘致を重点施策に位置付ける中、せとうちも「英・仏・独・米・豪の高付加価値旅行者」へ戦略を集中する。
戦略の目標	質を重視した「高付加価値なインバウンド観光地づくり」による地方創生
基本方針と戦略	「高付加価値なインバウンド観光地づくり」による地方創生の実現を目指し、3つの基本方針（旅行消費額の増加、観光客の満足度向上、住民の満足度向上）で取り組むこととし、この基本方針を推進するため、「誘客戦略」と「地域の魅力づくり戦略」を推進する。

第2章

廿日市市の観光の現状

1 主な観光資源等

(1) 市域全体の観光資源等



(2) 各エリアの観光資源等

宮島エリア

前観光振興基本計画において、宮島の目指すべき観光地の姿を「自然と歴史文化の調和、信仰の島、それを尊重する人々の生活スタイルを継承する“一流の国際観光拠点”」として各施策・取組を行い、関係団体、事業者、地域住民等のたゆまぬ努力により、コロナ禍を経て、多くの訪日外国人旅行者に選ばれる世界的な観光地となっています。世界遺産の厳島神社、歴史・伝統ある祭事や舞楽・能等の文化行事が継承され、また、弥山原始林や水族館等の自然体験の場や、気軽に楽しめる体験コンテンツも多く提供されるとともに、多くの飲食店や土産店、宿泊施設があり、本市における観光産業の拠点となっています。

《主な観光資源》



厳島神社



弥山からの眺望



宮島水族館（みやじマリン）



TOTO 宮島おもてなしトイレ



表参道商店街



大聖院

《主な体験コンテンツ等》



宮島ライトアップ



宮島エコツアー（人力車）



もみじ饅頭焼き体験



宮島細工

令和5（2023）年には、宮島の歴史文化、産業を一体的に発信する拠点施設として、複合施設「（仮称）宮島ミュージアム」を整備する基本計画がまとめられました。

宮島包ヶ浦自然公園は、現在、令和7年3月に策定した宮島包ヶ浦自然公園利活用方針に基づき、将来を見据えた再編整備計画の策定を進めています。

沿岸部（廿日市エリア・大野エリア）

宮島の玄関口である宮島口エリアには、旅客ターミナル施設（観光案内所、物販施設、情報センター等）や宿泊施設が建ち並び、少し足を延ばせば宮島から最も近い温泉街のある宮浜温泉もあります。

山あいには、瀬戸内海国立公園極楽寺山やアルカディアビレッジ、おおの自然観察の森、妹背の滝等の自然資源や、まちの駅 ADOA 大野、ボートレース宮島などの賑わい施設、海や山でのアクティビティ、蒸留所の見学ツアーなどの観光コンテンツも豊富にあります。

また、廿日市市は、けん玉発祥の地とされており、平成26（2014）年から毎年継続して「けん玉ワールドカップ廿日市」が開催され、世界中のけん玉プレイヤーから注目を集めています。

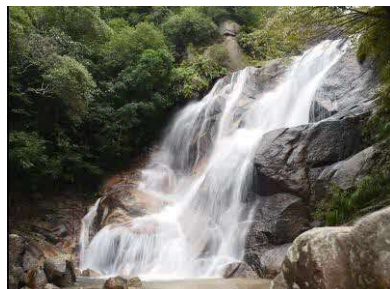
《主な観光資源》



宮島口旅客ターミナル



宮浜温泉街



妹背の滝



まちの駅 ADOA 大野



アルカディアビレッジ



けん玉ワールドカップ

《主な体験・コンテンツ等》



経小屋山トレッキング



海上レストラン



蒸留所見学ツアー



はっこいマルシェ

今後の動きとして、廿日市エリアでは、「平良丘陵開発観光交流エリア」において、約 15 ヘクタールの敷地を活用し、温泉・ホテル・レストランなどを備えた複合リゾート施設が、令和 11（2029）年に開業予定です。

大野エリアでは、広島東洋カープが、大野練習場と大野寮を株式会社中国新聞社が運営する「ちゅーピーパーク」内に移転する計画を令和 6（2024）年 1 月に発表しました。現在の 2 倍以上の広さとなる新施設「大野ファーム施設（仮称）」を整備し、令和 11（2029）年の完成を目指しています。

また、近年、宮島口エリアを中心に、多くの宿泊施設が開業される動きがあります。

新機能都市開発事業・平良丘陵開発観光交流エリアプロジェクト

新機能都市開発事業は、宮島スマートインターチェンジを有する「山陽自動車道」と「国道 2 号西広島バイパス」に近接し、JR 山陽本線「廿日市駅」から北西約 1km に位置する交通利便性が高いエリアで、人口減少・少子高齢化が進展する中においても、都市機能を維持し、さらなる賑わいと魅力を創出する新たな都市活力の拠点とするため、本市が官民連携で推進しているプロジェクトです。

その中の平良丘陵開発観光交流エリアは、良好なアクセスと、厳島神社のある宮島や瀬戸内海を一望できる絶好のロケーションを活かし、令和 11（2029）年の開業に向け、現在整備を進めている滞在型観光施設であり、市内観光の拠点となるだけでなく、広島県や瀬戸内エリアの観光拠点となる可能性を有しています。



（令和 6 年 12 月撮影）

中山間部（佐伯エリア・吉和エリア）

中山間部は、自然資源が豊かで、キャンプ場やスキー場、スポーツ公園等の自然レクリエーション施設が豊富にあります。神楽団、津和野街道などの伝統文化や歴史資源、温泉、観光農園、乗馬クラブ、釣り堀、美術館など多様な観光資源があります。

《主な観光資源》



めがひらスキー場



岩倉キャンプ場



佐伯国際アーチェリーランド



佐伯総合スポーツ公園



道の駅スパ羅漢



観光農園

《主な体験コンテンツ等》



神楽



フィールドアスレチック



森で育む生命の源流教育
（教育旅行誘致促進）



観光イベント
（シャボン玉マルシェ）

佐伯総合スポーツ公園では、令和7（2025）年度末に多目的広場が完成予定です。多目的広場の整備により、スポーツ拠点としての機能が充実します。

吉和エリアでは、蒸留所と見学施設が併設されたウイスキーパークが令和8（2026）年開業予定です。

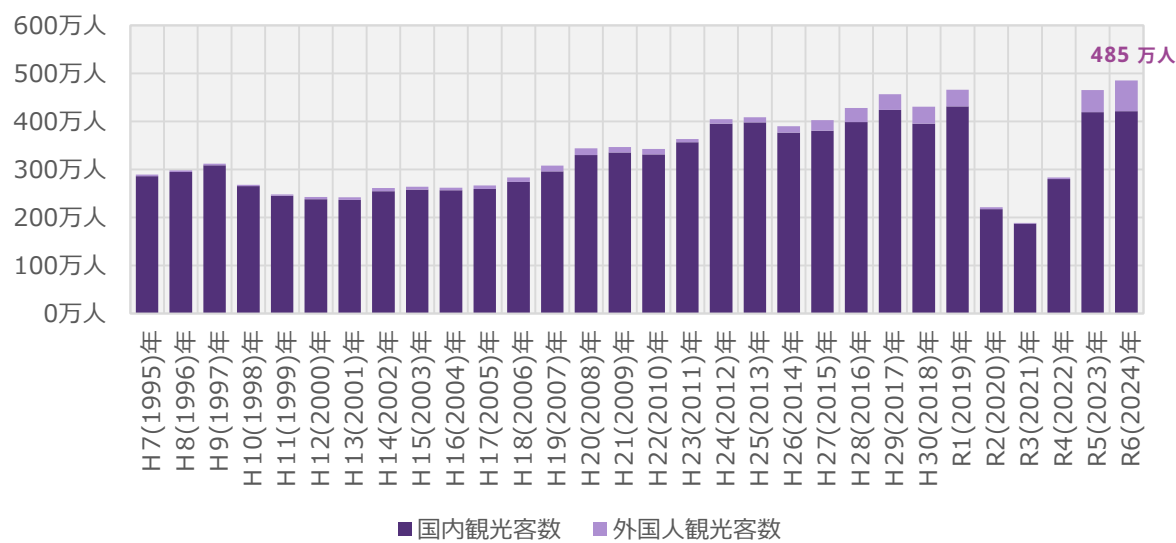
また、最近では、我が国最古、約42,300年前（旧石器時代中期～後期）のものと考えられる石器が出土した冠遺跡群が注目を集めています。

2 本市の観光の現況

(1) 観光動態、課題等

宮島来島者数（年別）の推移

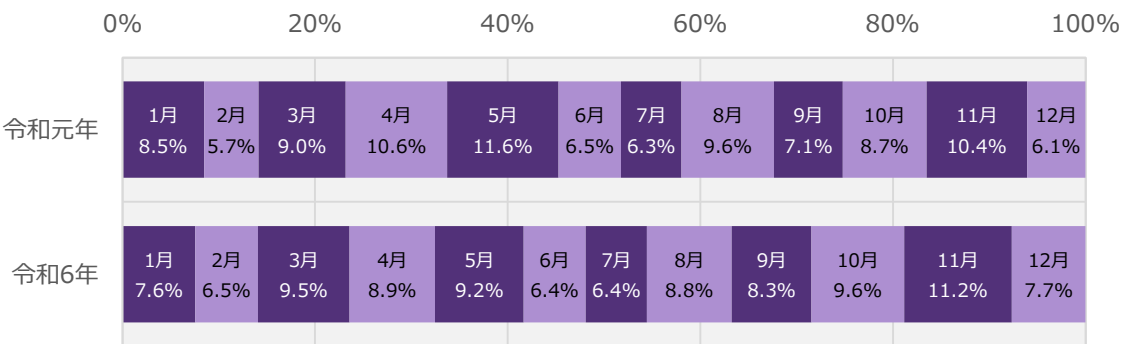
新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、令和3年の来島者は約200万人まで減少したものの、コロナ禍からの回復、G7広島サミット、円安等の影響により回復し、令和6年は485万人と過去最高を記録しました。



図表 宮島来島者数の推移
出典：廿日市市調査

宮島来島者数（月別）の推移

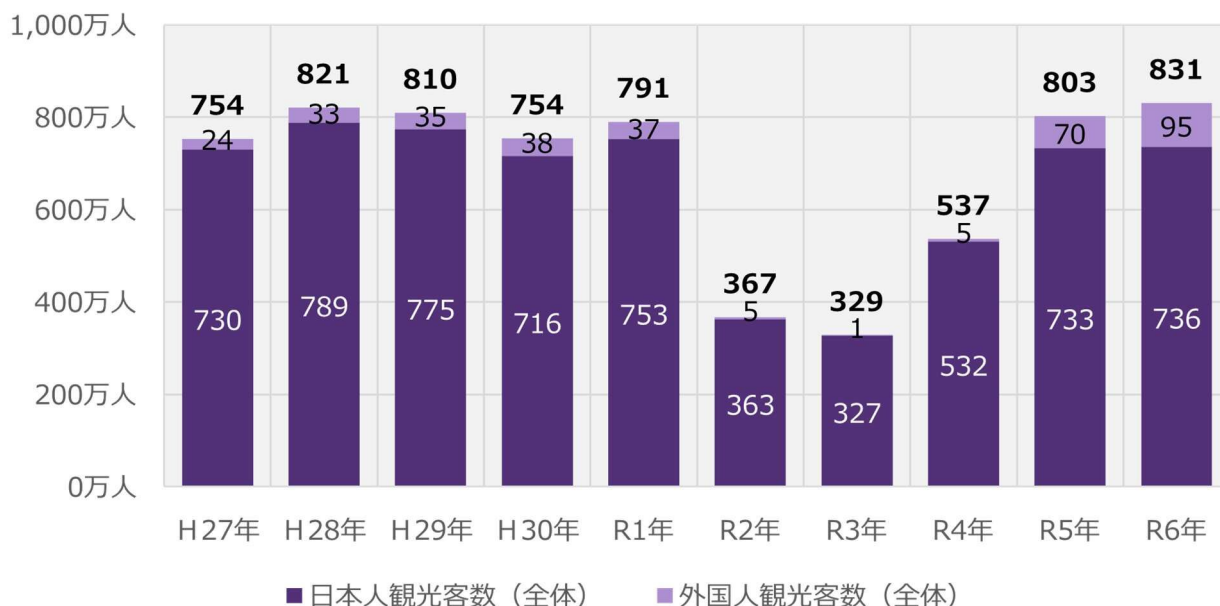
コロナ禍前後の令和元年と令和6年の月別来島者数を比べると、繁忙期（5月・8月・11月）と閑散期（2月・12月）の差が少なくなってきました。



図表 宮島来島者数の月別割合
出典：広島県観光客数の動向（一般社団法人広島県観光連盟）

総観光客数の推移

令和6年の総観光客数は、約831万人⁷で過去最高となりました。また、外国人観光客数も約95万人で過去最高となりました。

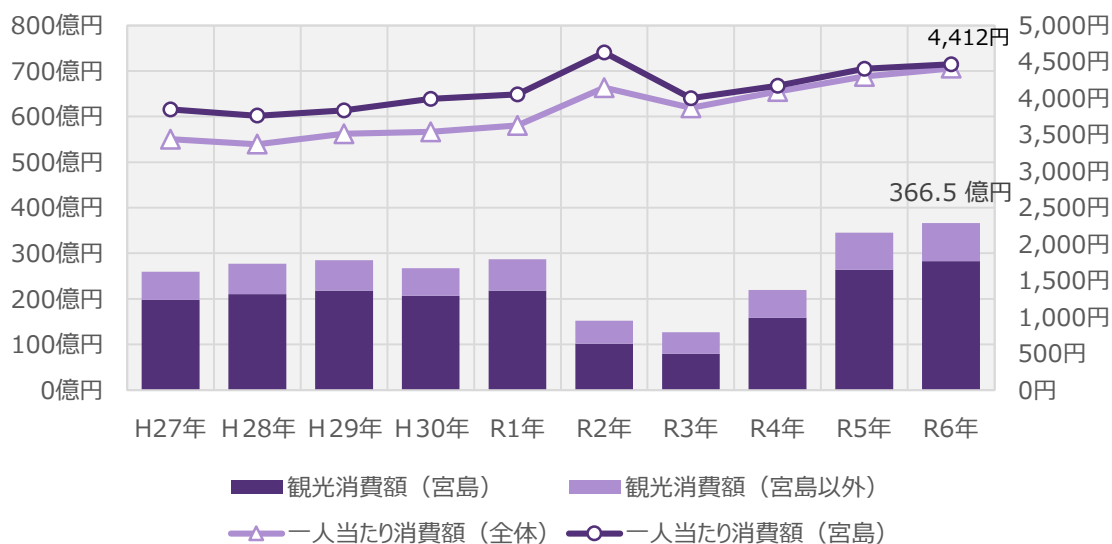


図表 総観光客数の推移

出典：広島県観光客数の動向（一般社団法人広島県観光連盟）

観光消費額・1人あたり消費額の推移

令和6年の観光消費額は、約366億円で過去最高となりました。また、一人あたり観光消費額は、4,412円⁸です。



図表 観光消費額・1人あたり消費額

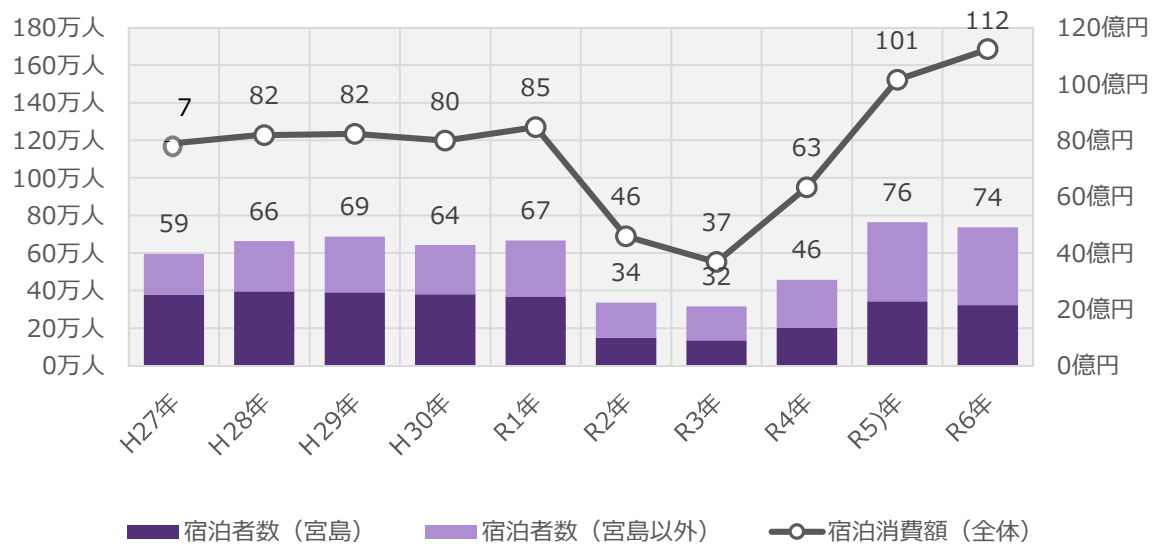
出典：広島県観光客数の動向（一般社団法人広島県観光連盟）

⁷ 広島県全体では、6,474万人で、廿日市市は、広島市に次いで第2位です。

⁸ 広島県全体では、7,829円で、廿日市市は、第8位です。

宿泊客数・宿泊消費額の推移

令和6年の宿泊客数は、約74万人⁹です。また、宿泊消費額は、約112億円で過去最高となりました。



図表 宿泊客数・宿泊消費額の推移
出典：広島県観光客数の動向（一般社団法人広島県観光連盟）

観光の現況における課題等

近年の観光動態やコロナ禍前後に拡大・顕在化した課題等として、次が挙げられます。

観光動態としての課題	コロナ禍前後に拡大・顕在化した課題等
● 滞在時間が短く、日帰り客が多い ● 一人あたり観光消費額が低い ➡県内比較では、観光客数・宿泊客数は多い ● 繁忙期と閑散期の観光客数の差が大きい ➡近年、閑散期の客数は増加傾向 ● 宮島から市内全域への周遊が少ない ➡約7割が宮島で、他の観光スポットの認知度が低くアクセス面も弱い	● オーバーツーリズムの未然防止・抑制 ● 急増するインバウンドや高付加価値旅行者への対応 ● 持続可能な観光への意識の高まり ● デジタル技術の活用が遅れ ● 観光人材の不足 ● 観光施策推進の体制整備の必要性 ➡観光地経営・マネジメント、マーケティングなど

⁹ 広島県全体では、約1,002万人で、廿日市市は、広島市、福山市に次いで第3位です。

(2) これまでの観光振興基本計画における取組と成果指標の達成状況

前計画では、3つの基本方針、8つの施策に基づき、様々な取組を進めてきました。

基本方針	施策の柱
(宮島地域に関すること) 1 宮島は観光の質向上を目指し、その風土や文化を理解する観光の担い手の定住と人材育成を進め、その取組を通じて宮島のブランド力を高めることにより“一流の国際観光拠点”を目指す	① 宮島のブランド力の持続・向上を図る
	② 宮島での滞在時間の延長や閑散期における集客を図る
	③ 宮島の受け入れ環境を整備する
	④ 歴史的節目や対象に応じたプロモーションを進める
(廿日市・大野・佐伯・吉和地域に関すること) 2 本土側の各地域においては、地域固有の交流資源を磨くとともに、その場所でしか食べられない“食”、その土地でしか買えない“商品”の充実等により、“地域色豊かな交流地域”の形成を目指す	⑤ 地域固有の交流資源を磨き、地域色豊かな交流拠点形成を進める
	⑥ 各地域が連携し、一体的な情報発信を進める
(廿日市市全体に関すること) 3 “一流の国際観光拠点”と“地域色豊かな交流地域”を目指す市内各地域をつなぎ、集客と経済効果を高める	⑦ 宮島と市内各地域をつなぎ経済効果を高める
	⑧ 広島湾地域での広域観光による魅力の強化を図る

図表 前計画の基本方針・施策の柱

数値目標の達成状況

すべての指標において、目標値を達成しています。特に外国人観光客数は国策としての各種インバウンド政策や、G7広島サミットの開催による認知向上、近年の円安などの要因も相まって目標を大きく上回る結果となっています。

指標	現状値 (H24)	目標値 (R6)	実績値 (R6)
総観光客数	729 万人	770 万人	831 万人
外国人観光客数	13 万人	30 万人	95 万人
宿泊客数	59 万人	70 万人	74 万人
観光消費額	259 億円	310 億円	367 億円
宮島の閑散期 5 ヶ月間の観光客数	153 万人	170 万人	200 万人

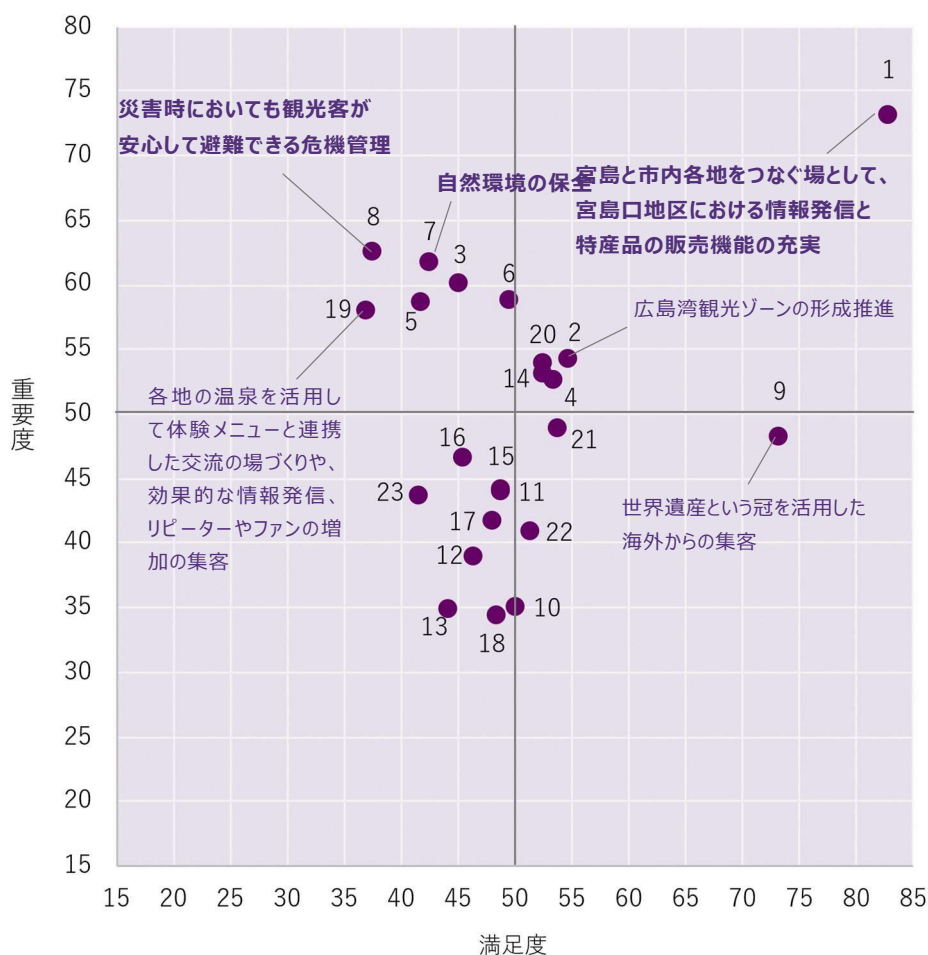
図表 前計画の数値目標の達成状況

(3) 市民・事業者による評価

市民目線による施策評価

市民アンケート結果では、「1 宮島と市内各地をつなぐ場として、宮島口地区における情報発信と特産品の販売機能の充実」が最も重要視され、満足度も最も高く、市民意識と行政の取組が一致しています。

他方、「8 災害時においても観光客が安心して避難できる危機管理」、「7 自然環境の保全」など、いくつかの施策では「重要度が高く、満足度が低い」象限に位置しており、今後の対応が必要です。



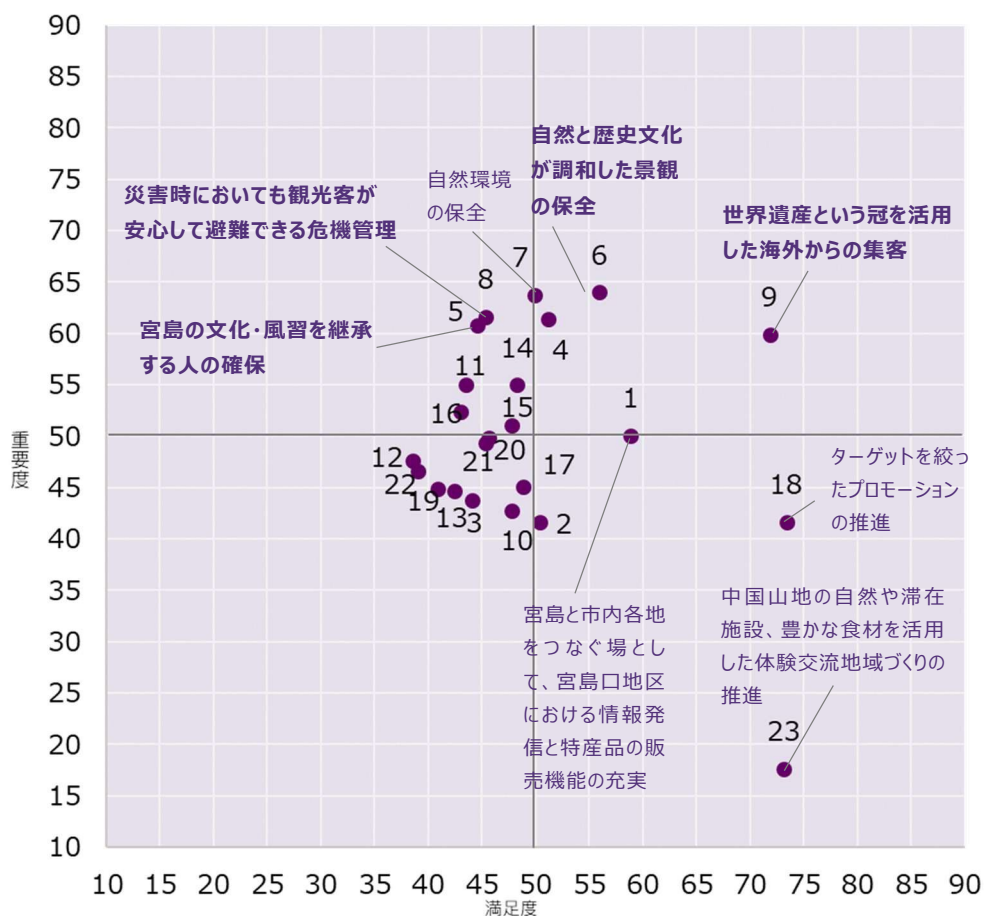
図表 前計画に掲げた施策の重要度・満足度

出典：廿日市市観光振興計画策定に関する市民アンケート（廿日市市）

事業者目線による施策評価

事業者アンケート結果においては、重要度が高い項目では、「9 世界遺産という冠を活用した海外からの集客」、「6 自然と歴史文化が調和した景観の保全」などについて満足度が高い評価となっています。

一方で、「8 災害時においても観光客が安心して避難できる危機管理」、「5 宮島の文化・風習を継承する人の確保」などについては、重要度が高いものの、満足度が低い評価となっています。



図表 前計画に掲げた施策の重要度・満足度

出典：廿日市市観光振興計画策定に関する事業者アンケート（廿日市市）

第3章

将来像と基本方針

1 将来像

今後の観光地・廿日市市としての地域のあるべき姿（将来像）を検討するにあたり、本市の観光の現状に加え、本計画策定の際に実施したアンケートやワークショップ、また日々の交流等の中で、地域の住民や事業者、関係団体からいただいた意見等を参考にしました。

また、ワークショップでは、「地域として観光をどう考えるか（価値や意義を踏まえどう定義するか）」や、「観光で地域をどう輝かせることができるか考えるべき」など、将来像を描く（ビジョンを設定すること）の有用性に対して理解が得られている現状を確認できました。

アンケートやワークショップ等から抽出したキーワードは次のとおりです。

共通項	頻出単語
持続可能性	サステナビリティ/千年先も/未来
多様性	エリア別の魅力/ユニバーサル
レジリエンス	強靭さ/柔軟さ/危機管理
循環	山・海の循環/分野横断/裾野の広さ/横ぐし
質	真正性/精神性/美食/景観/聖地・神

図表 市民等の意見におけるキーワード

これらを踏まえ、廿日市市は、歴史の重みと現代の多様性が調和し、誰もが何度でも訪れたい、また地域の人々が誇りを持てる持続可能な観光地へと進化していくことを目指し、将来像を次のとおり掲げます。

**歴史をつむぎ 多様性が広がる
世界に誇れる 観光のまち**

この将来像には、本市が大切にする3つの視点が込められています。

1. 「歴史をつむぐ」

廿日市市には、世界遺産である厳島神社をはじめ、古くから育んできた豊かな歴史と文化があります。これらの歴史的遺産をまちのアイデンティティとして尊重し、未来へ引き継ぐ決意を表しています。

歴史的建造物や伝統文化を保全しながら、訪れる人々には、その背景にある物語や人々の営みに触れ、廿日市市の奥深い魅力に浸ってもらいたいと考えています。

未来の世代にも、廿日市市の自然、文化、豊かな暮らしを引き継げるよう、今できることを実行していきます。

2. 「多様性が広がる」

廿日市市は、平成の大合併により、各地域の魅力が融合し、多様な人々が訪れ、暮らすまちです。国内外からの観光客や地域住民、様々な文化や価値観を受け入れる姿勢を示しています。

誰もが安心して訪れ、心地よく滞在できるユニバーサルツーリズムの推進や、多様なライフスタイルに対応し、ここでしかできない体験を通じて、訪れる人々がそれぞれの「楽しい」を見つけられる場所にすることを目指します。

3. 「世界に誇れる観光のまち」

世界中の多くの国からの来訪があり、国際的な観光地となっている宮島を後世にしっかり引き継ぐとともに、これからは、市域全体の魅力を磨き・発信することで、廿日市市を世界に誇れる観光のまちとして認知されるよう、これまで以上に観光振興・まちづくりに取り組む決意を表しています。

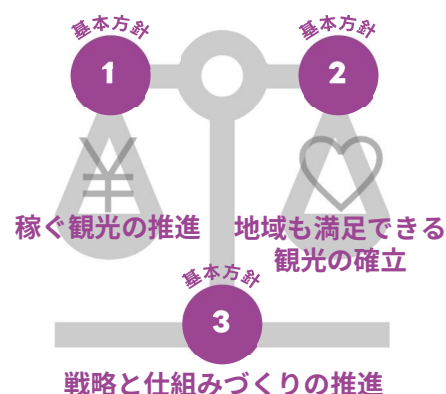
廿日市市が将来にわたって魅力を維持するためには、持続可能性が不可欠であり、社会経済、文化、環境の3つの側面から、観光が地域社会全体にとってプラスの循環を生み出すことを目指していきます。

また、自然・文化・歴史の継承に取り組み、その価値を国内外に発信するとともに、観光による収益を地域経済に還元し、地元の食材を活用した商品開発や雇用創出を通じて、地域経済の活性化を図ります。

2 基本方針

本計画の将来像として掲げた「歴史をつむぎ 多様性が広がる 世界に誇れる 観光のまち」を目指していくために、次の3つの基本方針に基づき取り組みます。

基本方針1及び2のバランスを考慮し、各施策・取り組みを実施するとともに、それらを支え・着実に実施するための仕組みづくり（基本方針3）を行います。

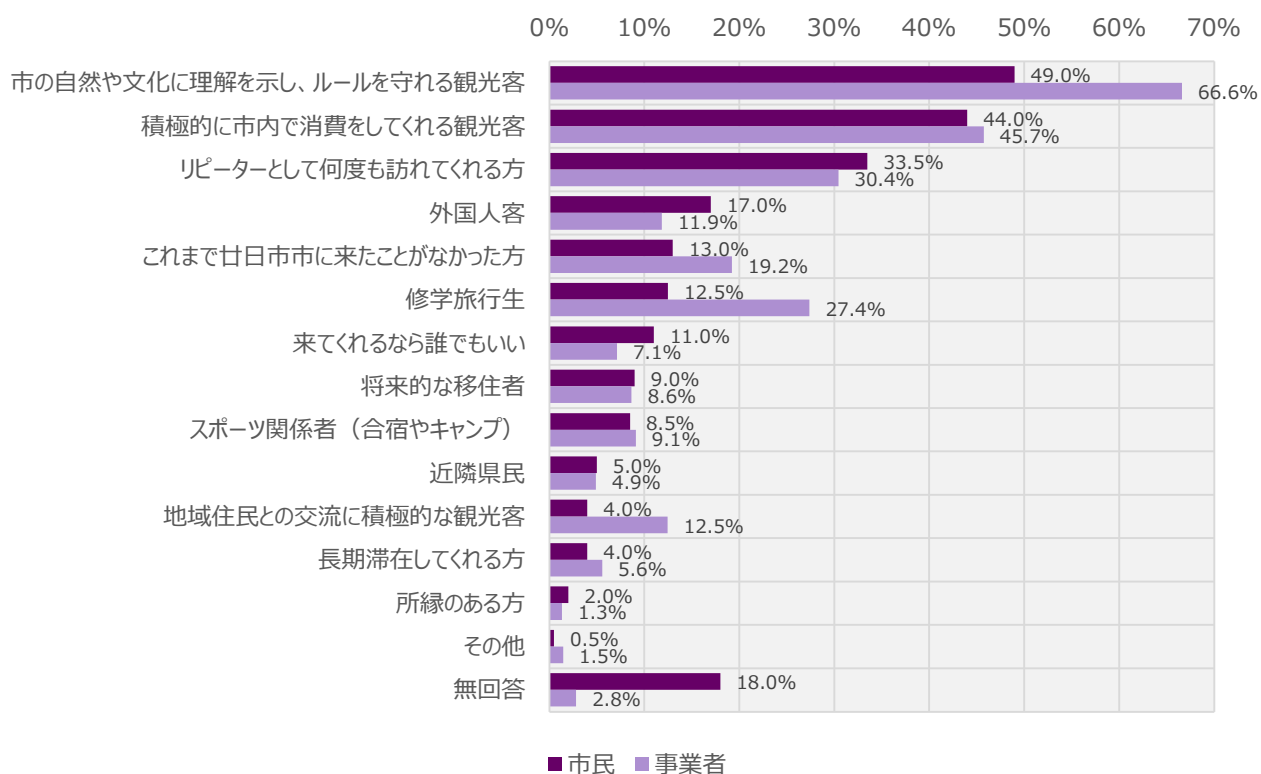


基本方針1 稼ぐ観光の推進

持続可能な観光地域づくりを進めていくには、自然環境や観光資源を単に保全するのみでなく、経済的・社会的にも持続可能性を追求し、その価値を高めていくことが重要です。

地域の魅力ある観光資源の保全と活用のバランスを考慮しつつ、収益性を高め、さらなる成長に必要な投資と人材確保・育成を進めることで、次世代に受け継がれる観光地及び観光産業を目指すとともに、これらの取組を通じて、地域の自然や文化の継承、発展につなげます。

本市の観光を取り巻く環境や時代の変化に対応し、多様なステークホルダーとの合意形成のもと、廿日市市ならではの「稼ぐ観光、稼げる観光」を推進します。



図表 望ましい観光客像

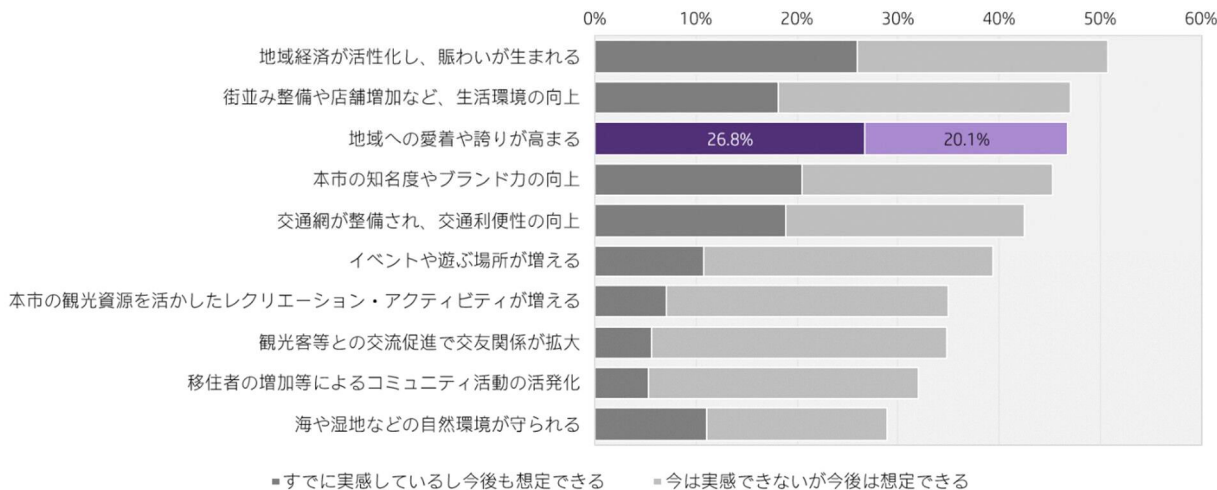
出典：廿日市市観光振興計画策定に関する市民アンケート（廿日市市）
出典：廿日市市観光振興計画策定に関する事業者アンケート（廿日市市）

基本方針2 地域も満足できる観光の確立

住民の日常生活に影響のある観光地では、観光客の満足度だけでなく、地域住民の満足度を高めていくことは、観光地の持続可能性を高めるための重要な要素です。

地域住民の観光への理解・満足度向上は、住民の地域への誇りと愛着の醸成、観光客へのおもてなし、満足度向上につながります。

観光振興が地域の負荷とならず、地域をより良くすることが重要であり、観光振興の意義を明確化し、情報発信や対話を行うことで、地域も満足できる観光を確立します。

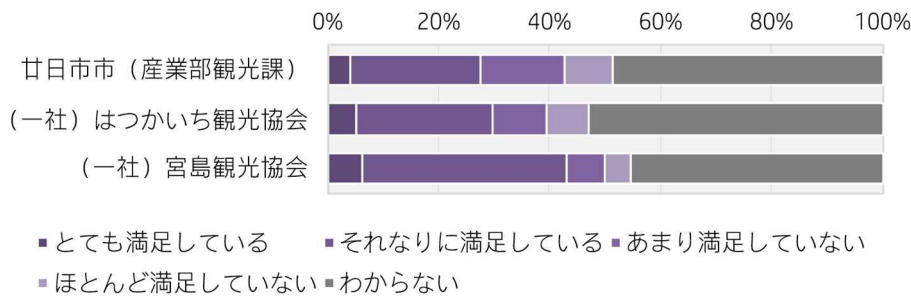


図表 観光振興によるまちづくりへの好影響
出典：廿日市市観光振興計画策定に関する市民アンケート（廿日市市）

基本方針3 戦略と仕組みづくりの推進

基本方針1及び2に基づく各施策・事業を推進する上で、経験や勘のみにとらわれず、観光データに基づくマーケティング手法を用い、戦略をもって、計画的・効果的な取り組みを実行します。

また、令和8（2026）年4月から運営開始する一般社団法人はつかいち宮島ツーリズム（はつかいち版DMO）を中心に、市や観光協会など、様々なステークホルダーと連携・協働し、誰もが安心して訪れ、心地良く滞在できる、また何度も訪れたいと思える観光地を目指し、市域全体で戦略的な観光地経営、持続可能な観光地域づくりを推進していきます。



図表 観光振興組織への満足度
出典：廿日市市観光振興計画策定に関する市民アンケート（廿日市市）

3 成果目標の設定

(1) 成果指標・目標値

成果指標	現状値 (R6)	目標値 (R12)
総観光客数	831 万人	1,300 万人
うち外国人観光客数	95 万人	120 万人
宿泊客数	74 万人	100 万人
観光消費額	367 億円	650 億円
1人あたり観光消費額	4,412 円	5,000 円
観光客満足度	8.2pt/10pt	8.5pt/10pt
住民満足度	27.2%	36.2%

(2) 目標値設定の考え方

総観光客数 【広島県観光客数の動向（広島県観光連盟）】

平良丘陵開発観光交流エリアの供用開始や各種観光施策の実施に伴う影響を踏まえた観光客数の見込を目標とします。

宿泊客数 【広島県観光客数の動向（広島県観光連盟）】

宿泊誘客など観光施策の推進、宿泊施設数の増加などに伴う影響を踏まえた宿泊客数の見込を目標とします。

観光消費額 【広島県観光客数の動向（広島県観光連盟）】

観光客数・宿泊客数の増加、平良丘陵開発観光交流エリアの供用開始、その他各種観光施策の実施に伴う効果を踏まえた観光消費額の見込を目標とします。

観光客満足度 【宮島観光客アンケート（廿日市市・観光課）】

観光客満足度の平均値（10段階評価）

現況値で5ポイント以下の評価をした人を6ポイントへ引き上げること为目标とします。

住民満足度 【市民アンケート（廿日市市）】

観光客の増加や観光に関する取組により、「地域経済が活性化し、賑わいが生まれている」や「地域への愛着や誇りが高まっている」と感じている市民の割合

現況値で「特に変化を感じていない」と回答した人（18.1%）のうち、その約半数が当該項目を選択することを目標とします。

第4章

施策と主な取組

1 施策体系

将来像の実現に向け、基本方針に基づく施策の体系を次のとおり整理しました。

また、持続可能な観光地域づくりを一定の基準のもと進めていくため、「日本版持続可能な観光地域づくりガイドライン（JSTS-D）」に設定されている4つのカテゴリー、47の項目を参考とし、各施策・取組を推進することとします。

基本方針・施策	JSTS-D の対応				主に関連するエリア		
	A 管理	B 経済	C 文化	D 環境	沿岸部	中山間部	宮島
基本方針1 稼ぐ観光の推進							
1. 観光消費の誘発と雇用創出		●			★	●	●
2. 一流にふさわしい質の追求		●			●	●	★
3. より力強いインバウンド誘客	●	●			●	●	★
4. 五感を刺激するウェルネスツーリズムの推進		●		●	●	●	●
5. 分散型観光の継続的な推進	●		●	●			●
6. 食を活用した消費拡大		●			●	●	●
7. 産業観光の推進		●	●		●	●	●
8. 自然資源等を活用したアクティビティの充実		●		●	●	★	●
基本方針2 地域も満足できる観光の確立							
1. 歴史や伝統文化とその価値の継承		●	●		●	●	●
2. 自然や歴史文化と調和する景観保全			●	●	●	●	●
3. 自然環境の保全・活用				●	●	●	●
4. 交通環境・観光アクセスの充実	●	●			●	●	●
5. 観光地としてのインナーブランディング	●				●	●	●
6. 観光客へのマナーや地域ルール等の啓発	●		●	●	●	●	★
基本方針3 戦略と仕組みづくりの推進							
1. 戦略的な組織体制づくり	●				●	●	●
2. 災害時等における観光危機管理	●	●					●
3. ユニバーサルツーリズムの推進		●			●	●	●
4. 多様な広域観光の推進	●				●	●	●
5. 沿岸部と中山間部の一体的な取組の創出	●				●	★	●
6. 観光 DX の推進	●				●	●	●
7. 観光人材の確保・育成	●	●			●	●	●

「A 管理」：持続可能なマネジメント、「B 経済」：社会経済のサステナビリティ、

「C 文化」：文化的サステナビリティ、「D 環境」：環境のサステナビリティ

★（他のエリアと比べ）特に関連性が強い ● 関連する

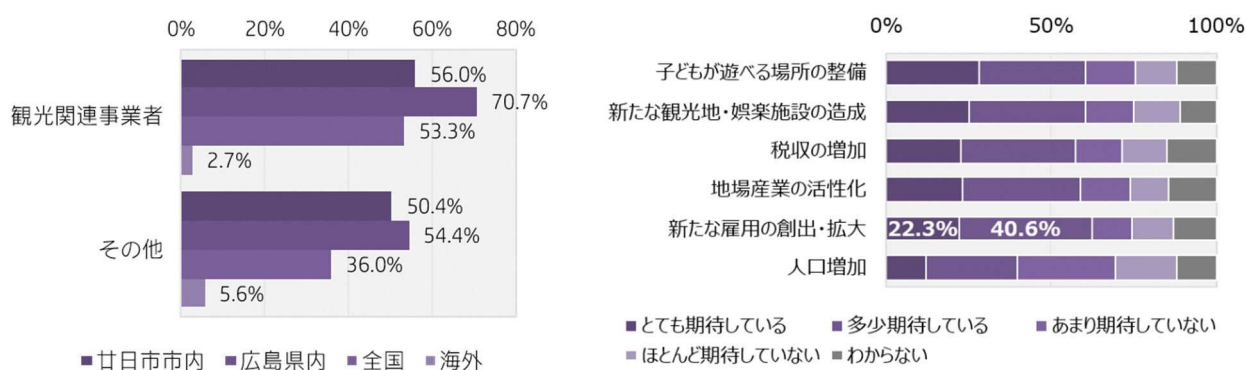
2 基本方針・施策毎の主な取組

基本方針1 稼ぐ観光の推進

施策1-1 観光消費の誘発と雇用創出

既存の地域資源を活用した新商品やサービスに加え、平良丘陵開発観光交流エリアなどの新たな拠点を活用し、市内各地での観光消費を誘発させるとともに、滞在型観光の推進と市内事業者の連携強化により、地域への経済波及効果を高めます。

また、こうした取組により、稼げる観光エリア、働きがいのある環境としての認知度が向上することで、雇用の定着や新たな雇用の創出・拡大を図ります。



図表（左） 原材料の仕入先

出典：廿日市市観光振興計画策定に関する事業者アンケート（廿日市市）

図表（右） 新機能都市開発事業（平良丘陵開発観光交流エリアの整備等）への期待

出典：廿日市市観光振興計画策定に関する市民アンケート（廿日市市）

主な取組

- 新機能都市開発事業（平良丘陵開発観光交流エリアの整備等）の推進
- 市内宿泊施設の連泊による滞在型観光の推進
- 地域資源を活用した新商品・サービスの開発支援や起業・創業の支援
- 夜の飲食やヴィーガンメニュー等の提供店舗への支援
- 市内事業者の連携強化・促進（プロモーションチーム等の結成、異業種交流会の開催など）

関連するJSTS-D

- B1 観光による経済効果の測定
- B3 地域事業者の支援と公正な取引

施策 1-2 一流にふさわしい質の追求

宮島は、コロナ禍を経て、多くの訪日外国人旅行者に選ばれる世界的な観光地となっています。今後も、関係団体、事業者、地域住民等と連携し、宮島の魅力を守り、磨き上げるとともに、ホスピタリティの向上や人材の確保・育成、デジタル化の推進に取り組むなど、国内外の観光客から選ばれ続ける「一流の国際観光地」として、観光サービスの質を追求します。

宮島以外のエリアについても、既存の観光資源を活かした新たな魅力の創出・ブランディングを行うとともに、宮島のブランド力や平良丘陵開発観光交流エリアの波及効果を活かし、市全域への波及・つながりの強化により、“世界に誇れる観光のまち”を目指します。

主な取組

- 宮島の持つ魅力ある資源（自然、文化、歴史など）の保全と活用、世界遺産としての価値の継承に向けた取組
- 観光人材の育成、観光産業の DX 化の推進
- 観光体験プログラムの高付加価値化
- 地域資源を活用した新商品・サービスの開発支援や起業・創業の支援（再掲）

関連する JSTS-D

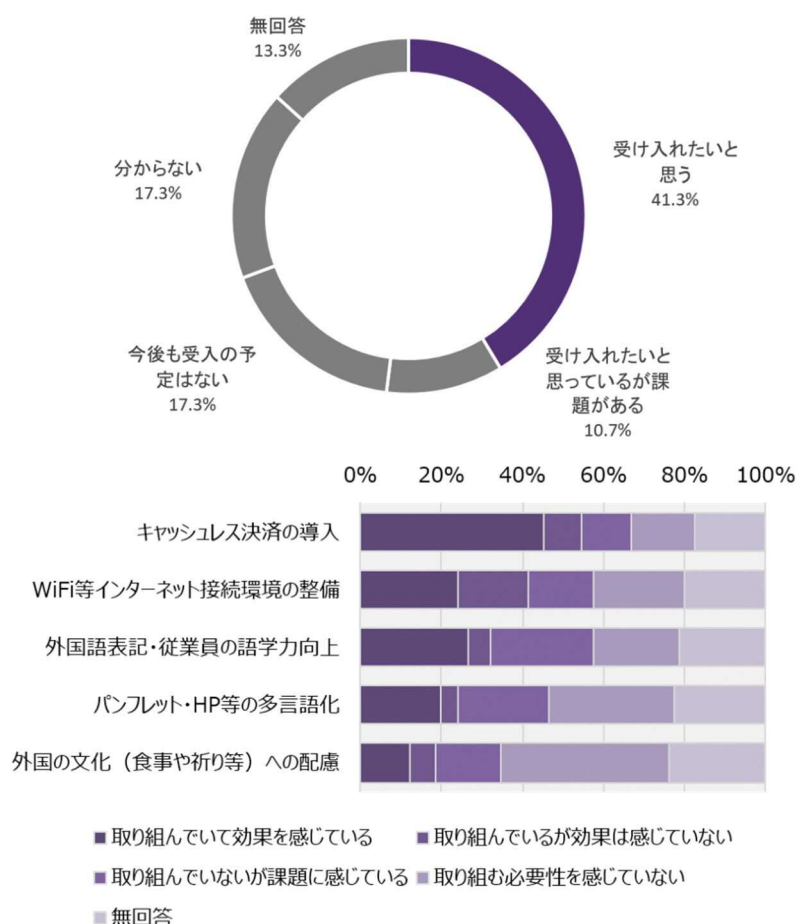
- B3 地域事業者の支援と公正な取引
- B8 多様な受入環境整備

施策 1-3 より力強いインバウンド誘客

国の新たな観光立国推進基本計画では、2030 年の目標値として訪日外国人客数 6,000 万人、消費額 15 兆円を目指す方針を掲げることとされています。

本市においても、令和 8（2026）年の厳島神社世界文化遺産登録 30 周年を契機とした事業やフランスのモン・サン＝ミッシェル市との観光友好都市提携による交流事業などの取組を推進します。

また、広島県観光連盟（HIT）やせとうち観光推進機構（せとうち DMO）等との連携を密にし、インバウンド誘客を強化するとともに、多言語化やヴィーガン等の食の対応、ユニバーサルデザインの導入などおもてなし環境の整備等に取り組みます。



図表（上） インバウンド客の受入意向

図表（下） インバウンド対応の取組状況

出典：廿日市市観光振興計画策定に関する事業者アンケート（廿日市市）

主な取組

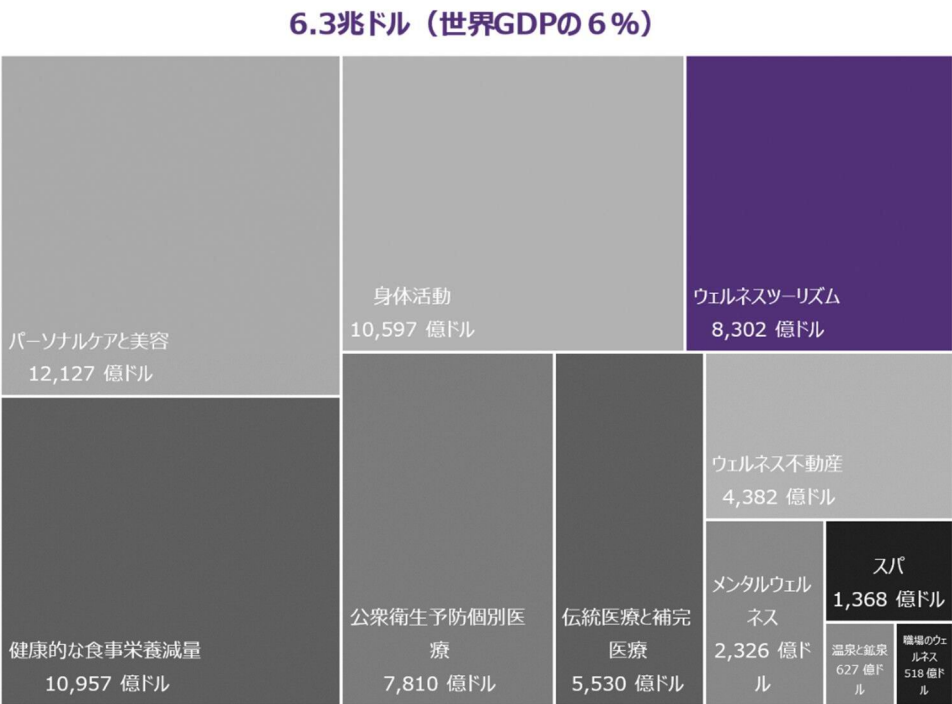
- 世界遺産登録 30 周年やモン・サン＝ミッシェル市との観光友好都市提携記念などを契機としたイベントやプロモーション事業の実施
- 広島県観光連盟、せとうち観光推進機構等と連携した事業の実施
- 多言語化やヴィーガン対応などの受入・おもてなし環境の整備
- 広島県・広島市、関係団体と連携したクルーズ客船の誘致並びに受入

関連する JSTS-D

- A10 プロモーションと情報
- B8 多様な受入環境整備

施策 1 - 4 五感を刺激するウェルネスツーリズムの推進

「ウェルネスツーリズム」¹⁰は心身の健康を追求する旅行で、今後の成長が見込まれる市場です。
本市の観光資源を生かし、体験を通じて癒しを提供し、満足度向上と観光消費の拡大を図ります。



図表 ウェルネス経済規模（2023 年）
出典：Global Wellness Institute

主な取組

- 宮島の朝夜の魅力を活かしたコンテンツ造成や新たなブランディング（「暮らすように過ごす」など）戦略による誘客
- 宮浜温泉街や中山間地域の温泉や体験コンテンツを取り入れたツアー造成

関連する JSTS-D

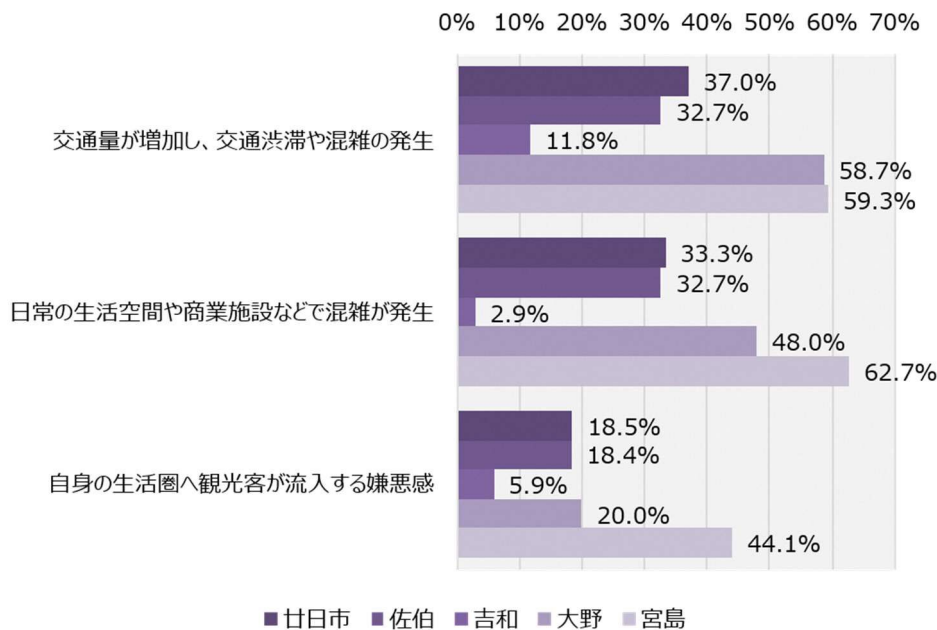
- B7 安全と治安
- D2 自然遺産における旅行者の管理

¹⁰ 健康の維持・増進を目的とした旅行のこと。温泉、スパ、ヨガ、健康的な食事など、心と体の健康を促進する要素を含む観光形態

施策1-5 分散型観光の継続的な推進

「分散型観光」は、時期・時間・場所による観光客の分散を図ることで、観光客の集中・混雑を緩和し、満足度向上や地域経済の活性化につなげるものです。

宮島観光においては、近年、閑散期の観光客が増加し、繁閑の差が小さくなっているものの、いまだ繁忙期の特定時間や場所に観光客が集中し、地域住民の生活や観光客の満足度に影響が生じていることから、引き続き、デジタル技術を活用した情報発信や、時間・エリアの分散誘導、宿泊誘客促進などにより、分散型観光を推進します。



図表 観光振興による悪影響の実感（混雑等に関するものの抜粋）

出典：廿日市市観光振興計画策定に関する市民アンケート（廿日市市）

主な取組

- 閑散期イベント（宮島夜市など）、厳島神社や紅葉谷公園等のライトアップの継続
- 新たな早朝・夜間の滞在体験メニューの造成
- 繁忙期の分散や閑散期の誘客を狙ったスタンプラリー等の実施

関連するJSTS-D

A11 旅行者の数と活動の管理
C6 文化遺産における旅行者の管理
D2 自然遺産における旅行者の管理
D14 光害

施策1-6 食を活用した消費拡大

「食」は、地域の食材や料理、その背景にある文化や歴史を含めて重要な観光資源です。

本市は、「瀬戸内海に面して牡蠣やあさりの養殖、名物のあなごめしなどでも知られ、もみじ饅頭の発祥地でもあり、多様な食文化を有する」都市として、「美食都市アワード 2025」を受賞しました。

また、吉和で栽培された冠苺が日本野菜ソムリエ協会主催の「第1回全国夏いちご選手権」で最高金賞を受賞しました。

このように本市の食が注目、評価されており、今後、これらの資源・魅力を生かし、観光振興と消費拡大につなげる取組を推進します。

さらに、食文化は言葉の壁を越えて文化を伝えることができることから、観光友好都市であるモン・サン＝ミシェル市との食を通じた交流を通して、さらなる観光振興につなげます。



図表 美食都市アワード 2025 ロゴ
出典：一般社団法人美食都市研究会

主な取組

- 市内農水産物（苺など）を活用した観光プロモーション
- 生産者や飲食事業者等と連携した食のイベント開催
- ガストロノミーツーリズムの展開

関連する JSTS-D

B3 地域事業者の支援と公正な取引

施策 1-7 産業観光の推進

本市が発祥の地であるけん玉をはじめ、宮島彫り、杓子、もみじ饅頭、宮島水族館、蒸留所など、地域資源を活用した体験や工場見学など、また、いちご狩りなどの観光農園、林業体験、牡蠣の水揚げ体験など、本市の産業に焦点を当てた観光を推進しています。

今後は、吉和のウイスキー蒸留所併設の体験施設、平良丘陵開発観光交流エリア内の木育体感施設、宮島歴史民俗資料館と宮島伝統産業会館を統合した「(仮称)宮島ミュージアム」などの整備が予定されており、新たな産業観光の拠点としての活用が期待されます。

主な取組

- 特産品・伝統工芸品や農林漁業などを活用した産業観光・体験型観光の推進
- けん玉ワールドカップなどのイベント開催支援
- 「(仮称) 宮島ミュージアム」の整備

関連する JSTS-D

B3 地域事業者の支援と公正な取引
B8 多様な受入環境整備
C2 有形文化遺産

施策 1-8 自然資源等を活用したアクティビティの充実

各地域の豊かな自然を活かしたキャンプやアウトドア、スポーツ、観光農園での果物狩りなどを目的とし多くの観光客が訪れています。

引き続き、最新の観光ニーズやターゲットに合わせ、自然資源を活用したアクティビティの充実、体験型観光の推進に取り組みます。

また、総合スポーツセンターサンチェリーや佐伯総合スポーツ公園などのスポーツ施設や各種大会開催に加え、広島市等で頻繁に行われるプロスポーツの試合、本市内の広島東洋カープやドラゴンフライズの練習場など、多様で恵まれたスポーツ環境を活かした誘客や市内周遊の促進を図ります。

また、環境教育や学習の場として、教育旅行や企業研修のプログラム開発の支援や誘致を促進します。

主な取組

- 観光施設の効果的な活用策の検討、実施
- スポーツイベントに合わせた観光誘客プロモーション等の実施
- 教育旅行や企業研修の誘致促進
- 宮島包ヶ浦自然公園の利活用の推進

関連する JSTS-D

D1 自然遺産
B3 地域事業者の支援と公正な取引
B4 コミュニティへの支援
B8 多様な受入環境整備

基本方針 2 地域も満足できる観光の確立

施策 2-1 歴史や伝統文化とその価値の継承

宮島の普遍的な価値や暮らしの中に信仰が息づく生活文化を次世代に継承していくために、歴史や伝統文化とその価値、またこれらを継承していくための取組を広く観光客にも知ってもらう必要があります。

各地域の文化や歴史、伝統産業・工芸品などの普及促進を図るため、体験プログラムやツアー造成、担い手や技術を継承する人材育成を行います。

また、地域の伝統的な行事の保存・継承や、賑わい創出、関係人口の増加を図ります。

主な取組

- 「千年先もいつくしむ。」プロジェクトの推進
- 伝統工芸の体験や文化財の見学プログラムの造成支援
- 地域の祭りやイベントの活性化に向けた企画・運営支援
- 「(仮称) 宮島ミュージアム」の整備（再掲）

関連する JSTS-D

- B3 地域事業者の支援と公正な取引
- B4 コミュニティへの支援
- C2 有形文化遺産
- C3 無形文化遺産
- C4 地域住民のアクセス権

施策 2-2 自然や歴史文化と調和する景観保全

宮島や宮島口などの観光交流拠点では、建築物や工作物の規制・誘導により、歴史的・文化的な景観を保全しつつ、統一感のあるまちなみの形成を推進します。

また、自然の風景や地域生活に配慮され、歴史文化と調和した景観の保全に努めます。

主な取組

- 重要伝統的建造物群保存地区の町並み保存推進
- 景観を考慮した観光サインの整備
- 宮島無電柱化の推進

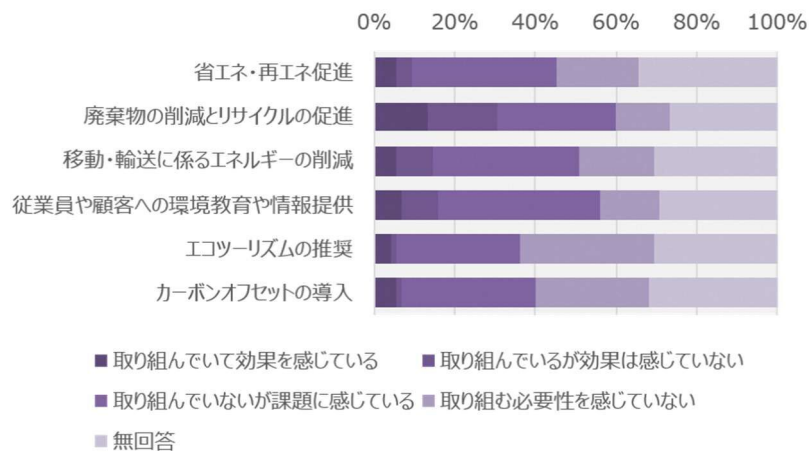
関連する JSTS-D

- C1 文化資産の保護
- C8 観光資源の解説
- C6 文化遺産における旅行者の管理
- D2 自然遺産における旅行者の管理

施策 2-3 自然環境の保全・活用

観光客の集中による環境負荷の軽減を図るとともに、観光客や地域住民への環境保全に関する啓発活動を実施します。

また、宮島の自然、文化、歴史などの地域資源を保全しつつ、その魅力を発信することで、観光客や地域住民の関心を高め、地域社会の活性化につなげる宮島エコツーリズムを推進します。



図表 環境に関する取組状況

出典：廿日市市観光振興計画策定に関する事業者アンケート（廿日市市）

主な取組

- 環境清掃活動やイベント実施等による啓発活動の実施
- 観光施設等への再生可能エネルギーの活用や省エネ機器の導入、啓発
- 宮島エコツーリズム全体構想に基づく取組の推進

関連する JSTS-D

- D1 自然遺産
- D2 自然遺産における旅行者の管理
- D3 自然遺産における旅行者のふるまい
- D4 生態系の維持
- D7 省エネルギー

施策 2-4 交通環境・観光アクセスの充実

宮島口地区における交通渋滞対策については、長年にわたり様々な対策を講じ、一定の成果があったが、解消するまでには至っていないため、引き続き、関係機関と連携し対策を進めます。

宮島島内の観光アクセスと地域公共交通の確保については、観光客の動向を踏まえつつ、地域住民や事業者等と連携し、対応します。

また、市内周遊や広域観光の拠点として、平良丘陵開発観光交流エリアにおける観光アクセスに必要な交通網について、関係機関等と検討を進めます。

主な取組

- 混雑状況や観光情報の効果的な発信
- 宮島口地区の駐車場の確保、パークアンドライドの推進等
- 宮島島内の観光アクセス・地域公共交通の確保
- 二次交通の充実

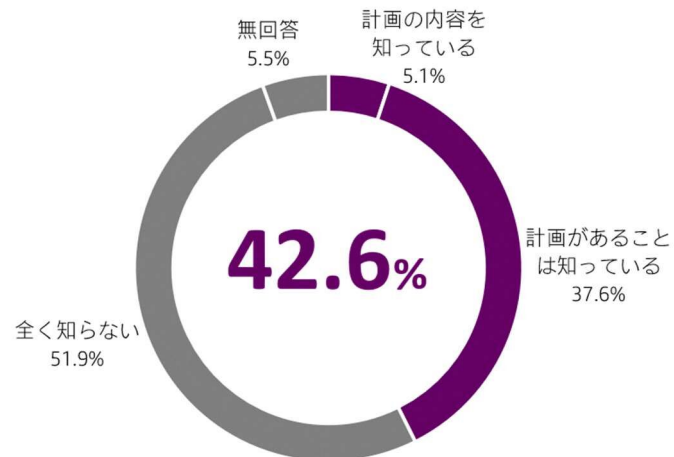
関連する JSTS-D

A11 旅行者数の数と活動の管理
B8 多様な受入環境整備

施策2-5 観光地としてのインナーブランディング

地域の観光資源の魅力を知ってもらい、多くの方の来訪につなげていくことは、地域経済の活性化に寄与するとともに、地域住民等の地域への愛着や誇りの醸成につながります。

また、本計画に基づく将来像や基本方針、取組内容等について、地域住民や事業者と共有・対話し、地域一体となった観光地経営を進めます。



図表 廿日市市観光基本計画の認知度

出典：廿日市市観光振興計画策定に関する市民アンケート（廿日市市）

主な取組

- 地域の祭りやイベントの活性化に向けた企画・運営支援（再掲）
- 国内外に向けた地域の魅力の発信
- 地域への観光情報の提供、市民アンケートの実施

関連する JSTS-D

- A6 住民参加と意見聴取
- A7 住民意見の調査
- A9 旅行者意見の調査

施策2-6 観光客へのマナーや地域ルールの啓発

宮島観光では、ごみのばい捨てや鹿への餌やり禁止、ドローン撮影や弥山登山の注意事項など、観光客に守ってもらいたいルールや法規制などがあります。

他の観光地でも同様ですが、自然や文化財の保護だけでなく、観光地にもその地に暮らす住民がいることから、日常生活に配慮し、責任ある観光行動のもと、観光を楽しんでもらえるよう、観光マナー啓発や地域ルールの普及啓発に取り組みます。

主な取組

- 観光マナー啓発看板等の設置、啓発イベントの実施

関連する JSTS-D

- A11 旅行者数の数と活動の管理
- C6 文化遺産における旅行者の管理
- C8 文化遺産における旅行者のふるまい
- D2 自然遺産における旅行者の管理
- D3 自然遺産における旅行者のふるまい



図表 宮島桟橋ターミナル等に掲出しているポスター

出典：廿日市市



写真 宮島で開催した旅先クイズ会

出典：廿日市市

基本方針3 戦略と仕組みづくりの推進

施策3-1 戦略的な組織体制づくり

観光を軸に地域の活性化を図り、稼げる地域・持続可能な観光地域づくりに取り組むために設立した、一般社団法人はつかいち宮島ツーリズム（はつかいち版DMO）が中心となり、本市の観光施策・事業を戦略的に実施します。

今後、様々なステークホルダーと連携・協力のもと、『チームはつかいち』として、観光地マーケティングやターゲットに的確なプロモーションに取り組みます。

また、計画的かつ戦略的な事業実施に当たっては、安定した財源の確保が必要となるため、宮島訪問税や入湯税、また令和8（2026）年4月から広島県が徴収開始予定としている宿泊税など、安定財源の確保に努めます。

主な取組

- 一般社団法人はつかいち宮島ツーリズム（はつかいち版DMO）を中心とした観光地経営・マネジメントの実施
- 観光DMPを活用したマーケティングの実施
- 戦略的なプロモーションの実施
- 事業者や関係団体と連携した事業の実施
- 安定財源の確保策の検討・実施

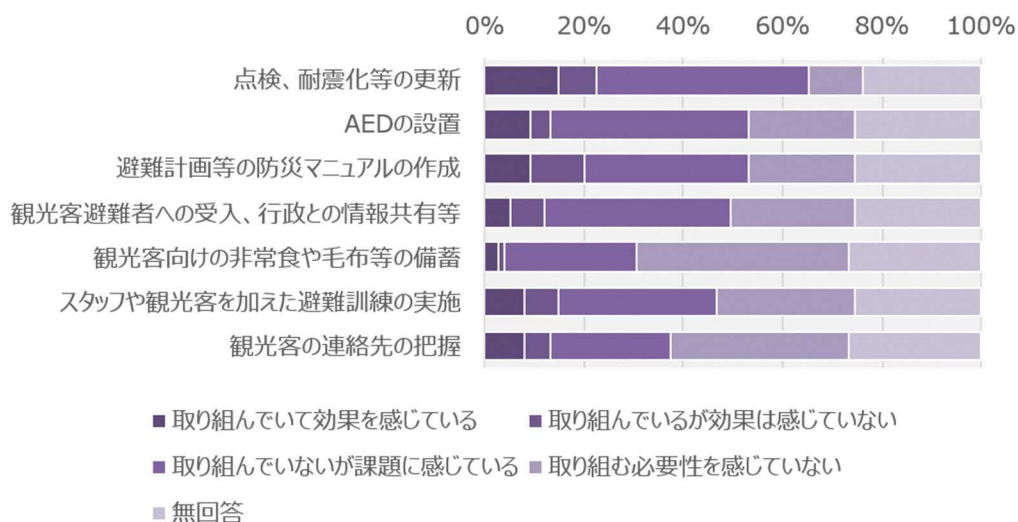
関連するJSTS-D

- A1 デスティネーション・マネジメント（観光地経営）戦略と実行計画
- A2 デスティネーション・マネジメント（観光地経営）の責任
- A4 観光による負荷軽減のための財源
- A10 プロモーションと情報
- A11 旅行者の数と活動の管理

施策3-2 災害時等における観光危機管理

宮島への観光客の安全確保のため、自主防災組織のほか、観光関係団体や事業者と連携し、観光客への防災情報の周知や緊急時における避難の呼びかけ体制の構築を進めていきます。

今後、より災害に強い観光地を目指し、観光危機管理体制の強化をはじめ、防犯、食中毒やアレルギー対応、熱中症予防、感染症対策など、観光客だけでなく、地域住民も安心して過ごすことができるよう取り組みます。



図表 危機管理に関する取組状況

出典：廿日市市観光振興計画策定に関する事業者アンケート（廿日市市）

主な取組

- 観光危機管理体制の強化（平時の備え、発生時の対応等）
- 関係団体等と連携して実施する各対策・予防のためのセミナー、研修会の実施等
- 宮島栈橋旅客ターミナルの改修検討

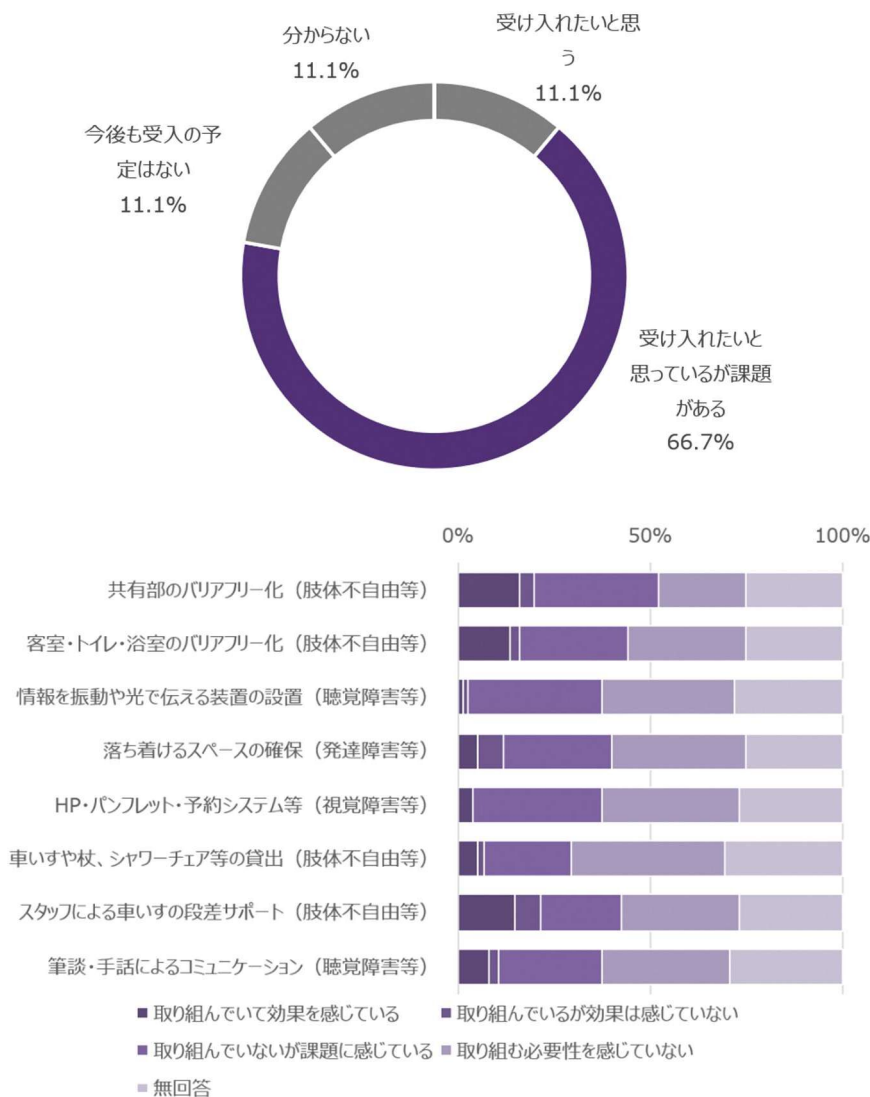
関連するJSTS-D

- A11 旅行者の数と活動を管理
- A16 感染症対策
- B7 安全と治安

施策3-3 ユニバーサルツーリズムの推進

高齢者や障がい者、ベビーカー利用者、外国人など、誰もが安心して快適に旅行を楽しめるようにする取り組み全体を指すもので、『すべての人が楽しめる旅行』という考え方を重視したユニバーサルツーリズムを推進します。

観光施設などの適切な維持管理やバリアフリー化の推進に加え、多様な観光客のニーズに合った飲食や旅行プランの提供など、ハード・ソフト両面の取組や支援を実施します。



図表（上） ユニバーサルツーリズムの受入意向
図表（下） ユニバーサルツーリズム対応の取組状況
出典：廿日市市観光振興計画策定に関する事業者アンケート（廿日市市）

主な取組

- わかりやすく、効果的な観光情報の発信
- バリアフリー施設・設備の整備の推進
- 手ぶら観光の推進

関連する JSTS-D

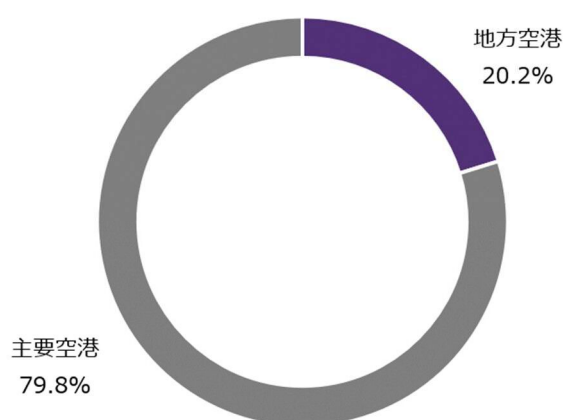
B8 多様な受入環境整備

施策 3-4 多様な広域連携の推進

これまでも広島広域都市圏（連携中枢都市圏）、近隣市町、松山市などと連携し、ツアー造成、共同プロモーション、商談会などに取り組んできました。

今後は、世界遺産登録 30 周年などを契機に、首都圏や海外からの誘客を加速させるとともに、令和 11（2029）年開業予定の平良丘陵開発観光交流エリアについては、広島県内だけでなく、瀬戸内エリアや山陰エリアの観光の新たな拠点として、多様な広域連携の推進について、広島県観光連盟やせとうち観光推進機構等と連携の上、誘客と観光消費の拡大を図ります。

また、国の観光立国推進基本計画や、県の観光立県推進基本計画においてインバウンド受入に向けた地方空港の重要性が高まるなか、本市も広域連携のもと、二次交通の充実に取り組みます。



図表 空港別入国者数割合（R6 年）

出典：出入国管理統計（R7, 出入国在留管理庁）

主な取組

- 広域連携団体間での共同事業の推進
- 観光資源や交通ネットワークのつながりによる新たな広域周遊の展開
- 広島県観光連盟、せとうち観光推進機構等と連携した事業の実施（再掲）
- 世界遺産登録 30 周年契機としたイベントやプロモーション事業の実施（再掲）
- 二次交通の充実（再掲）

関連する JSTS-D

- A10 プロモーションと情報
- A11 旅行者の数と活動の管理
- B8 多様な受入環境整備

施策3-5 沿岸部と中山間部の一体的な取組の創出

本市は、北は西中国山地、南は瀬戸内海に面し、多様な自然環境に恵まれたまちであり、中山間部ではキャンプやスキー、観光農園などの体験、沿岸部・島しょ部では、世界遺産の宮島や温泉街など、多くの観光客が訪れます。

こうした観光コンテンツを個別に磨き上げるとともに、自然、文化、歴史などの地域資源のつながりや、事業者同士のコラボレーションにより、新たな魅力やコンテンツを創出し、新たなターゲット層の開拓や滞在期間の延長、地域経済への波及効果につなげていきます。

主な取組

- 関係団体や事業者等と連携したコンテンツ造成
- ストーリー性のある周遊ルート開発と交通アクセスの充実
- ターゲットに合わせた戦略的なプロモーション

関連するJSTS-D

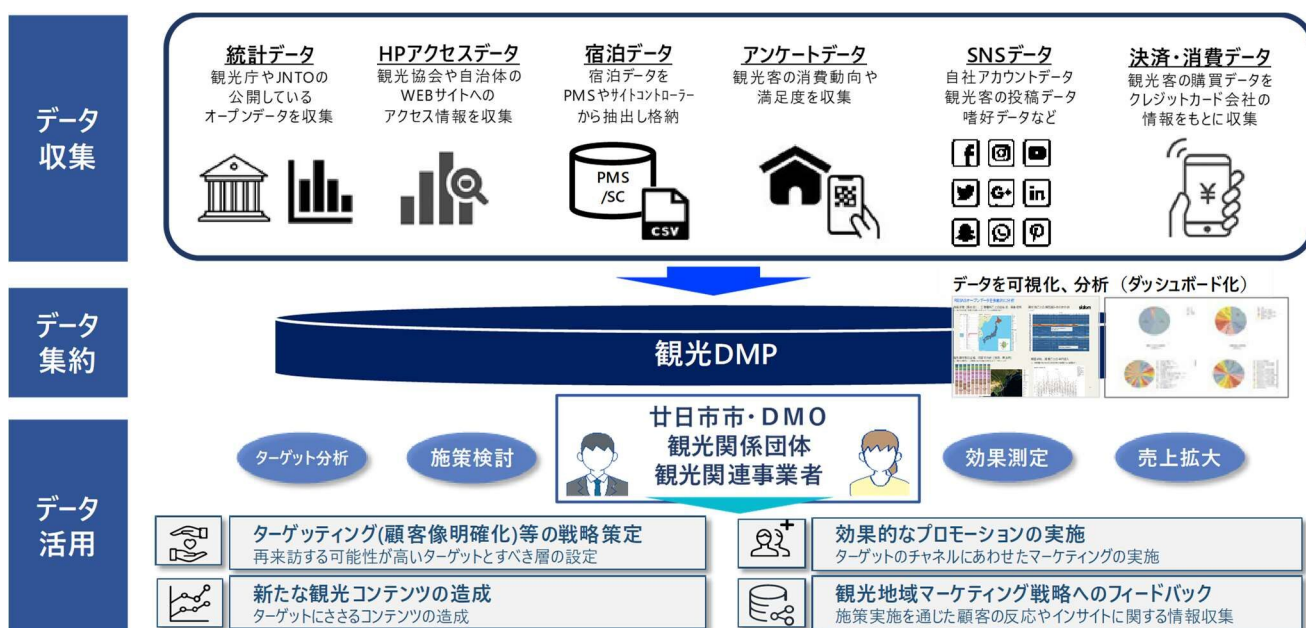
- A10 プロモーションと情報
- A11 旅行者の数と活動の管理

施策3-6 観光DXの推進

国においては、観光DXを進めることで、旅行者の利便性向上、観光産業の生産性向上、観光地経営の高度化などを図ることとしています。

本市では、令和5（2023）年度及び令和6（2024）年度で観光DMP¹¹を構築しましたが、今後は観光団体や事業者と対話の上、より活用できる（しやすい）データの収集と活用へとブラッシュアップし、データに基づく施策の立案や評価など、PDCA¹²サイクルの推進を図ります。

また、本市の観光の現状（観光動態を含む）や施策・事業について、観光団体、事業者、地域住民、観光客等に情報発信するとともに、アンケートや対話等により得た意見等を施策・事業に反映する仕組みづくりを行います。



図表 観光DMPの仕組み

出典：廿日市市

主な取組

- 観光公式LINEを活用した事業者等への観光データの発信
- 観光マーケティング定例会の開催等による観光戦略・事業実施の検討
- 観光デジタル人材の育成・活用、支援

関連するJSTS-D

- A3 モニタリングと成果の公表
- A6 住民参加と意見聴取
- A7 住民意見の調査

¹¹ Data Management Platform の略。観光に関する様々なデータ（観光客の属性、行動、消費データなど）を一元管理し、分析・活用するためのプラットフォーム。データに基づく観光戦略の立案や効果的なプロモーションに活用される。

¹² Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Act（改善）の頭文字をとったもの。この4つの段階を繰り返すことで、業務を継続的に改善していく手法。

施策3-7 観光人材の確保・育成

地方創生の切り札とされる観光産業において、観光人材の確保は、観光地のブランド力や競争力に直結するため、慢性的な人手不足や求められるスキルの高度化もあり、事業者単位ではなく、地域レベルでの人材確保の仕組みづくりが必要とされています。

観光地としてのブランド力向上と、各エリア・業態間での人材や資源をシェアする仕組みづくりや働きがいのある環境づくりの支援を行うことで、稼げる観光・持続可能な観光地域づくりの基盤となる観光人材の確保・育成に取り組みます。

主な取組

- 人材確保の仕組みづくりの検討や働きがいのある環境整備の支援
- 事業者等と連携した事業推進のサポート体制・ネットワークづくり
- 出前講座・勉強会等（観光によるまちづくりの魅力・取組の紹介など）の開催

関連するJSTS-D

B2 ディーセント・ワークと雇用機会
A8 観光教育

第5章

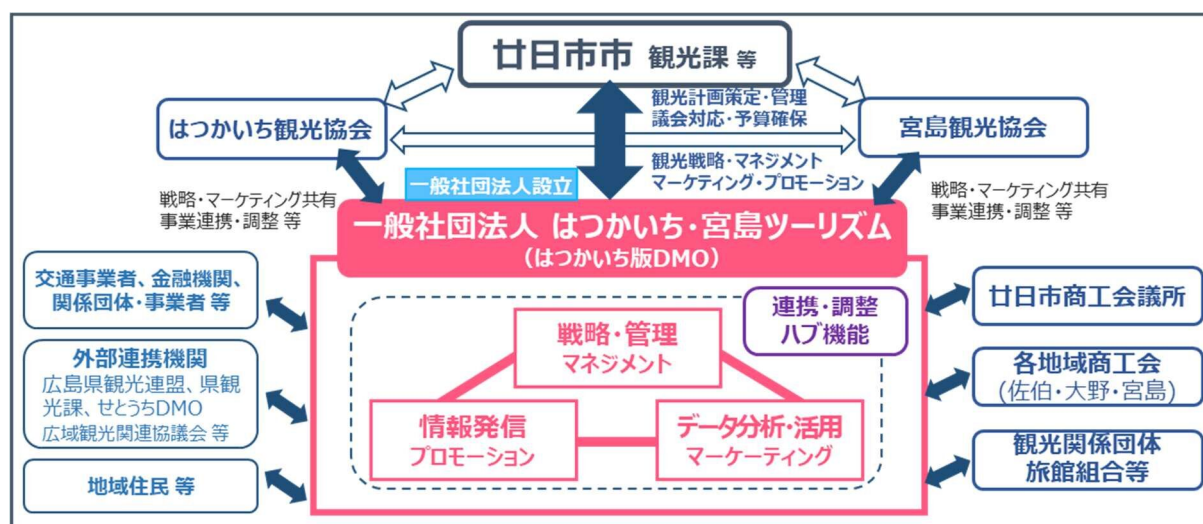
将来像の実現に向けて

1 推進体制

(1) 一般社団法人はつかいち宮島ツーリズム（はつかいち版 DMO）の役割

令和 8（2026）年 4 月から、新たに設立した一般社団法人はつかいち宮島ツーリズム（はつかいち版 DMO）が運営を開始します。

市（行政）は、引き続き、地域の観光振興における計画の策定や運用、政策レベルでの立案といった公共的な役割を担い、一般社団法人はつかいち宮島ツーリズム（はつかいち版 DMO）は、地域（エリア内）の最適化を図り、稼げる地域・持続可能な観光地域づくりを推進するため、より具体的・実務的な戦略の実践・管理や、データに基づいたマーケティング、情報発信プロモーションなどを基幹業務として実施し、その他、関係機関との連携・調整を図るハブ機能としての役割も担います。



図表 一般社団法人はつかいち宮島ツーリズム（はつかいち版 DMO）の概要図

出典：廿日市市

(2) 役割分担

市・DMO¹³・観光協会等・事業者・市民が、それぞれの役割を認識しつつ、相互に連携・協力の上、本計画の将来像の実現に向け、各施策・取組を実施します。

基本施策	ステークホルダー				
	市	D M O	観 光 協 会 等	事 業 者	市 民
基本方針 1 稼ぐ観光の推進					
1. 観光消費の誘発と雇用創出	●	★	●	●	
2. 一流にふさわしい質の追求	●	★	●	●	●
3. より力強いインバウンド誘客	●	★	●	●	
4. 五感を刺激するウェルネスツーリズムの推進	●	★		●	
5. 分散型観光の継続的な推進	●	★			
6. 食を活用した消費拡大	●	★		●	●
7. 産業観光の推進	★	●	●	●	
8. 自然資源等を活用したアクティビティの充実	●	★		●	
基本方針 2 地域も満足できる観光の確立					
1. 歴史や伝統文化とその価値の継承	★	●	●	●	●
2. 自然や歴史文化と調和する景観保全	★	●	●	●	●
3. 自然環境の保全・活用	★	●	●	●	●
4. 交通環境・観光アクセスの充実	★	●		●	●
5. 観光地としてのインナーブランディング	★	●	●	●	●
6. 観光客へのマナーや地域ルールの啓発	★	●	●	●	●
基本方針 3 戦略と仕組みづくりの推進					
1. 戦略的な組織体制づくり	●	★	●		
2. 災害時等における観光危機管理	★	●	●	●	●
3. ユニバーサルツーリズムの推進	★	●	●	●	
4. 多様な広域観光の推進	●	★	●	●	
5. 沿岸部と中山間部の一体的な取組の創出	●	★	●	●	
6. 観光 DX の推進	●	★	●	●	
7. 観光人材の確保・育成	●	★	●	●	●

★主体 ●主体をサポート・連携する関係者

13 一般社団法人はつかいち宮島ツーリズム（はつかいち版 DMO）の略

2 着実な進行管理

(1) 進行管理の方法

本計画の確実な実行に向けては、成果目標として掲げる目標値について、それぞれの取組がどのように寄与しているのかを定期的な調査等を通じて確認することとし、これまで同様、観光振興基本計画マネジメント委員会により、評価・進捗管理を行うなど、PDCA サイクルを構築することとします。

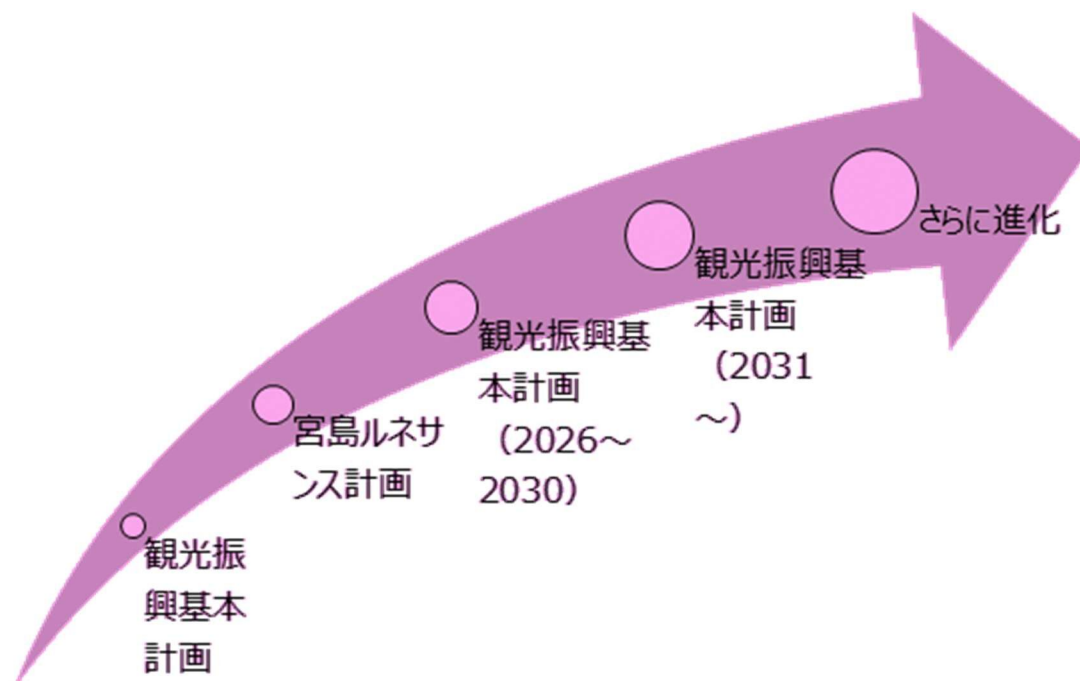
また、観光 DMP により、引き続き観光データの収集、分析を行い、その結果を関係団体や事業者等と共有するとともに、次の打ち手の企画・実行につなげていきます。

さらに、JSTS-D の指針に基づく各項目を参考に、本計画の施策・取組の点検・評価を行います。



(2) 中長期的なビジョン

本計画は、令和12（2030）年を終期としているが、本市観光を取り巻く社会経済情勢や環境変化に柔軟に、また、機動的に対応しつつ、より中長期的なビジョンを持って、将来像の実現、各施策・事業の推進に取り組んでいきます。



參考資料

1 計画策定の経過

(1) 委員会の開催

本計画は、以下のとおり、廿日市市観光振興基本計画策定委員会における協議を経て策定しました。

回	開催年月日	協議内容
第1回	令和6年 11月1日	(1) 現行計画の振り返り・達成状況 (2) 市観光の現状・取組 (3) 観光振興基本計画策定の方向性 ① 策定趣旨・ポイント ② 策定方法 ③ スケジュール
第2回	令和7年 3月18日	(1) 廿日市市観光振興基本計画骨子（案）について
第3回	令和7年 7月22日	(1) 廿日市市観光振興基本計画素案について
第4回	令和7年 10月17日	(1) 廿日市市観光振興基本計画素案について (2) 廿日市市観光振興基本計画概要版レイアウト案について (3) 今後の進め方について

(2) ワークショップ、ヒアリング等の実施

以下のとおり、ワークショップ及びヒアリングを通じて、地域の実情や今後の意向などについて、アンケートの量的調査からは拾いきれない定性的な内容を聞き取りしました。

区分	開催年月日	内容・参加者
ワークショップ①	令和7年 4月23日、24日	【内容】前計画の振り返り、現状の共有など 【参加者】まちづくり団体、市内事業者等 10 名
ワークショップ②	令和7年 6月2日、6月3日	【内容】事前アンケート結果の共有、課題解決のための新規取組案の検討など 【参加者】市内事業者等 30 名
ヒアリング	令和7年 8月20日	【内容】各業界の現状や今後の展開について 【対象】宮島の関係団体等（表参道商店街、宮島料飲組合、宮島物産商業組合、宮島菓子組合、宮島コミュニティ推進協議会）

(3) アンケート調査の実施

市民アンケート調査

調査方法：郵送による配布・郵送及びWEBによる回収
調査期間：令和6年12月19日～令和7年2月3日
調査対象：廿日市市民 900 名 【回答数：308 名（回収率 34.2%）】

事業者アンケート調査

調査方法：郵送による配布・郵送及びWEBによる回収
調査期間：令和6年12月19日～令和7年2月28日
調査対象：市内に本社又は事業所を置く企業及び個人事業主 1,223 社/者 【200 社/者（回収率 16.4%）】

2 廿日市市観光振興基本計画策定委員会

敬称略

区分	役職等	名前	備考
有識者	大阪公立大学観光産業戦略研究所所長	橋爪 紳也	観光振興計画マネジメント委員会委員
	国土交通省港湾局総務課企画官	大宅 千明	元国連世界観光機関駐日事務所副代表 (令和7年6月30日まで)
関連団体	一般社団法人はつかいち観光協会会長	塩田 ひとし	観光振興計画マネジメント委員会委員
	一般社団法人宮島観光協会会長	中村 靖富満	観光振興計画マネジメント委員会委員
	廿日市商工会議所会頭	澁谷 憲和	
	一般社団法人広島県観光連盟専務理事	岡村 清	観光振興計画マネジメント委員会委員
行政機関	広島県商工労働局観光課長	石濱 真	第2回委員会まで 観光振興計画マネジメント委員会委員
		小田上 久美子	第3回委員会から 観光振興計画マネジメント委員会委員

廿日市市観光振興基本計画 2026»2030

令和8年(2026年)3月

廿日市市 産業部 観光課

〒738-8501 広島県廿日市市下平良一丁目11番1号

TEL : 0829-30-9141

URL : <http://www/city.hatsukaichi.hiroshima.jp/>